

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書 (第9号)

2016 年度

就実大学
就実短期大学

ごあいさつ

副学長兼産学官地域連携センター長

杉山 慎策

厚労省が公開した「平成 28 年(2016)人口動態統計の年間推計」によれば、2016 年の出生数は 98 万 1 千人で、一昨年の 100 万 5 千人から約 2 万 5 千人減少したことになります。出生数が 100 万人を切るのは、明治 32 年(1899 年)に人口統計が開始されてから初めてのことです。人口減の影響は特に地域で顕著で、地域の少子化・高齢化は今後一層加速することが予測されています。

このようなマクロ環境の下、地域に存在する大学はその地域のための「知の拠点」として地域創生に大きな期待が寄せられています。国の政策においても「地域における大学は、地域にとって重要な知的・人的資源であり、地域全体の発展に一層寄与すべき」とされ、大学と連携した地域づくり、地域に根ざした人材養成、地域再生のための人づくりや人材ネットワークづくりなどを掲げて各省庁により様々な地域再生プログラムが展開されています。

岡山県立大学が中心となり就実大学を含む 8 大学は平成 27 年度から「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」をスタートし、地方創生のための地道な活動を開始しています。岡山県立大学が設立した「地域創生コモンズ」には岡山県立大学デザイン学部と就実大学経営学部がコラボをして真庭市の若手経営者対象の6回シリーズのセミナーを実施し、参加者から高い評価を得ております。今後このような取り組みを県内の他の市に設置されている「コモンズ」で協力して取り組む予定です。

地域創生のためには地域のことを深く知る必要があります。COC+参加の8大学は自治体、企業からなる 29 機関の参画を得て、5 か年計画で「岡山創生学」や「岡山学」など地域に眠る歴史や資源の掘り起こしを行い、これを参加大学の学生や地域市民のための講義に活用する予定です。

一方、本学においては、これまで「就実公開講座」をはじめ「就実教育実践センター講演会」「薬学部地域連携教育講座」「就実大学経営学部マーケティング実践講座」など、各学部・学科における様々な講演会が地域市民に公開されています。また、出前講義や自治体や山陽新聞社、いくつかの医療機関との連携協力を進めてきました。さらに、教職員・学生による地域支援、ボランティア活動として、「学生ボランティアグループ GBA による地域子育て支援」「就実子育てアカデミー」「吉備地方文化研究所」等の活動は、昨年度の大学基準協会の認証評価においても、優れた取り組みとして高く評価されました。

大学の教育研究活動によって獲得されてきた知識や技能を社会貢献という形で地域社会に還元することが地域の活性化につながり、生活改善や福祉の向上、豊かな社会の形成に役に立つと考えています。このような地域と密着した大学としての存在が就実大学と言うブランド力を高めると確信しています。今後「産学官地域連携センター」を中心に、学内外の変化も取り入れながら様々な活動に取り組んで参りますので、今後とも、皆様のご理解と、ご支援、ご協力のほど、よろしくごお願い致します。

平成 29 年 3 月 吉日

目 次

ごあいさつ	1
就実公開講座	5
学科・研究所・センター等主催事業	37
出前授業	61
学外組織との連携・協働	71
各種学外委員会の応嘱	89
講師の派遣	103

就 実 公 開 講 座

前期講座テーマ

「暮らしの中の『? (はてな)』」

(平成 28 年 6 月 4 日～7 月 9 日)

与謝野晶子が岡山に来たことがあるって本当ですか？

短期大学 生活実践科学科 准教授 加藤 美奈子

与謝野晶子（1878～1942）の旅は、明治30年代頃より始まり、昭和15年5月、病床につくまでの35年間、170回以上にわたるといふ。内、与謝野寛（1873～1935 昭和期にはすでに、号「鉄幹」ではなく本名「寛」を称している）と一緒にいった旅は115回、海外へも、明治44年、渡欧中の寛を追うように単身シベリア鉄道でパリへと向かった他、昭和3年には中国・大連などを旅している。国内では26都道府県、110か所にも及ぶといふ（沖良機『資料与謝野晶子と旅』（武蔵野書房、1996年））。末子の藤子の誕生一年後の大正9年からは特に回数が多く、「よい自然の所へ置いて下されさへするなら、促されずとも私達は歌を詠まずにゐない」（『街頭に送る』（昭和6年、講談社 引用は、内山秀夫・香内信子編集・解題『與謝野晶子評論著作集 第十四卷[街頭に送る]』（2001年、龍溪書舎）によった。以下同断）といった記述からも、旅と作歌についての意識がうかがわれる。晶子らの「旅先」となった地域での顕彰活動としては、「歌碑」の建立などが顕著で、堺市編『新訂与謝野晶子歌碑めぐり』（二瓶社、2007年）に掲載されている歌碑だけでも、約240基がある。

与謝野寛と岡山については、明治20年、14歳の時、「（岡山）市外国富村安住院に住職たる長兄・和田大圓の許に寓す。同市の中学予備門に入る」（『與謝野寛年譜』『與謝野寛短歌全集』（明治書院、昭和8年））と、少年期からの縁がある。安住院は、現在は岡山市内で、内田百閒の墓所があることでも知られる。明治21年、寛は15歳で「数学の不得意に由り岡山中学校の入学試験に落第す。窃かに思へらく、数学の才に疎なるは漢詩に耽るが為めなりと」、「十一月京都に帰」と回想している（同書）。大正6年5月には、夫妻で中国・九州地方をめぐるが、途上、正宗敦夫（1879～1958、和氣郡伊里村）を訪問している。敦夫は、大正14年～昭和6年まで刊行された『日本古典全集』の編纂に夫妻とともに従事していた。その縁もあり、後述するように昭和8年6～7月に、伊里村に敦夫を訪ね同宅に宿泊、岡山の旅を共にしている。

昭和4年秋には、寛・晶子は、末子・藤子を伴い高梁を中心とした備中地域を来訪している。この頃の寛・晶子は、第2次「明星」が昭和2年4月に終刊、後継の「冬柏」の創刊は昭和5年3月で、昭和4年は二人が一時的に機関誌を持っていなかった時期である。晶子は、大正10年4月に西村伊作によって創設された文化学院で寛とともに教育に従事、合間をぬって新詩社同人・社友らとともに旅行を続けた。昭和4年7、8月には、寛とともに鹿児島・宮崎の景勝を歌に詠む依頼で九州を旅行、同年12月に『霧島の歌』が刊行されている。

『與謝野寛年譜』（前掲）においても、昭和4年の項に、「10月、晶子と備中高梁町附近の溪谷及び豪溪に紅葉を賞す」の記述が見える。晶子による「北備溪谷の秋」は、この昭和4年の岡山訪問についての随筆・紀行文である（『街頭に送る』（前掲）所収。初出は、「横浜貿易新報」掲載「北備溪谷の秋（上）・（中）・（下）」（昭和4年11月（上）17日・（中）18日・（下）19日））。この記述によると、岡山駅まで自動車の迎えがあり、「高梁町」（昭和29年町村合併により高梁市）を訪れている。昭和4年の来岡の経緯は、「終始深切な案内役」として「北備溪谷の秋」に登場する「芳賀直次郎氏」の直話を掲載した地方文芸誌「備北文芸」（「備北溪谷の旅と人間像 特集・与謝野夫妻」、森幸影「満奇洞などへ案内された芳賀直次郎氏に聞く」（備北文学会機関誌「備北文学」（昭和52年12月、備北文学会））の記事により、高梁出身のロシア文学者・米川正夫が、高梁で中学の同級生

だった芳賀氏を紹介したことが機縁となっていることがわかる。「芳賀氏は（中略）此日も幾枚かを写し、即夜に現像して翌朝私達に贈られた」とされる写真が本文中に掲載されているが、芳賀直次郎は明治期、高梁で初めて開業した写真館「芳賀芙蓉軒」を経営していた。

寛・晶子は、旅館「油屋」に4泊、高梁来訪の2日目の朝、山城として唯一天守が現存する重要文化財「備中松山城」で朝霧を鑑賞、宇土溪、鬼ヶ嶽、「葉師温泉」、「山中鹿之助の碑」、翌3日目、山田方谷の墓所である「方谷園」、当時「真木の穴」と呼ばれていた鍾乳洞「満奇洞」を訪れ、阿哲峽を舟で川を下っている。4日目、「高等女学校」（順正女学校）で講話の後、「頼久寺」で歌会、5日目は高梁を発ち、総社駅から豪溪、雪舟ゆかりの宝福寺、吉備津神社を訪れ帰京している。

この間の旅詠は、翌年の昭和5年11月「冬柏」に、寛「吉備の秋（一）」（39首）、晶子「吉備の秋（二）」（29首）として掲載されているが、所謂「郷土資料」や地域に残された自筆資料（揮毫）には、それらに所収されず、また、表記に異同の見える例が散見される。拙稿「与謝野寛（鉄幹）・晶子「北備溪谷の秋」の旅で詠まれた歌——旅詠、揮毫、歌碑、「郷土資料」をめぐって——」（『吉備地方文化研究』26、2016年）において、この旅詠について所収資料とともに網羅的に掲載した。一般に、「満奇洞」は晶子が命名した、という言説が県内では広く知られるが、少なくとも現在参照出来る同時代の資料からは、確証は得られない。その経緯については、前掲拙稿でも言及した。

「北備溪谷の秋」では、前述の「芳賀直次郎」の他、「町村長、中学、女学校、小学校の校長と教職員、其他大勢の地方有志」が「日日時間を割いて遊賞の一行に加はられる」という歓待を受けている。が、晶子は、「その厚意を十分に感謝しながらも、実は難有迷惑に思われた」と率直に述べている。同文で、「大袈裟な待遇」とあるように、例えば「宇土溪」では、「村長は私達に採らせるため一週間前から山に番人を付けて盗採を防いで置かれた」という。豊永村では、「荻野翁」（荻野繁太郎 1876～1940年）。大正期に豊永村長を務めた）が、「潮の滝」を見せるために「三日前に三十人の人夫を使用して、溪底へ下る険しい切崖の路を修繕」している。満奇洞では、「今朝特に岡山市から取寄せた立派な弁当を私達にすすめ」るなど奔走し、「私達を鍾乳洞へ案内するために役場は全く空であった」という。この旅で、訪問先が地域を挙げて二人を迎えていることが印象に残る。

昭和8年6、7月の8泊9日にわたる旅については、同年7月刊行の「冬柏」の「消息」に、寛が旅程を載せている。和気駅より正宗敦夫宅を訪問、2泊している。その間、瀬戸内を舟で周遊、伊部焼に歌を書き、その体験を歌にも残している。その後、下津井、鷺羽山を訪れ、味野高等女学校で講演、勝山、神庭の滝、湯原温泉（水島館）、院の庄、作楽神社、奥津温泉（河鹿園）、津山、衆楽園、津山高等女学校・津山実科女学校で講演、最終日には後楽園を訪れている。後楽園では、寛が岡山にあった少年時を回想する「半田山兎を狩りし少年が六十にしてその山を見る」といった詠を残していることも興味深い。

旅詠は、「冬柏」（前掲同）所収、晶子「海より溪へ（一）」（79首）、寛「海より溪へ（二）」（99首）で確認出来るが、これらは、藤原幾太・杉鮫太郎『岡山文庫41 岡山の短歌』（日本文教出版、昭和46年）に再掲されている。一方で、旅先に建立された歌碑、講演のため訪れた学校の校誌（岡山県立児島高等学校『創立七十周年記念誌』（平成元年）、岡山県立津山高等学校『写真でつづる90年』（昭和60年））等に、「冬柏」未掲載歌が散見され、また、表現の異同、加えて夫妻の講演内容の記録が確認される。与謝野寛・晶子の岡山来訪の足跡は、郷土と文学者の関わりを知る上で、所謂「中央」の文献資料のみならず、地域に残された資料の重要性についても改めて考えさせられる例である。

食品の色には意味がある？

短期大学 生活実践科学 教授 岡本 己恵子

色は「食品の顔」であり、食品の良否を判断する要素、おいしさを決める要因となっています。

私たちは、食品の色から、様々なイメージを喚起されます。懐石料理などの「和食」は、「目で味わう」と言われ、「自然の美しさや季節の移ろいの表現」「年中行事との密接な関わり」などが評価され、2013年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。日本料理では緑色が多く使われ、よい献立の条件のポイントになっています。和食の調理法の基礎になったのは、平安時代に伝わった古代中国の五行思想です。「五行配当表」によれば、「五色」は、青（緑）、黄、赤、白、黒で、食物にはそれに相当する色素が含まれ、健康上有効なはたらきをしています。「食材五色バランス健康法」は、食材を色別に五種類に分類し、出来るだけ五色の食材が入っているものを選ぶことで、バランスのよい食事につながるというものです。主な天然色素は、「フラボノイド系」「カロテノイド系」「ポリフェニン系」の三つに分けられ、前二者では抗酸化作用が期待されています。多くの疾患につながる過剰な「活性酸素」は、紫外線・ストレス・加齢などの要因で増加しやすくなります。このことから「活性酸素」を減らす成分として、「抗酸化色素」「ポリフェノール類」が注目されています。

よく耳にする「ポリフェノール」は、多くの植物に存在する色素・成分の総称です。赤ワイン、ブルーベリーなどに含まれる成分が健康食品として話題になっていますが、明確な根拠があるわけはありません。大豆イソフラボン、カテキン、 β -クリプトキサンチンなども食品に含まれる色素・成分ですが、様々な効果が報告されています。健康食品の信頼性は、国立健康・栄養研究所のサイトなどで確認し、特定の食品に偏らないことが大切です。日々の食事は五色の食材を活用しながら、

四季折々の食材を楽しみ、適量をバランスよく食べることが健康維持につながるのではないでしょうか。

身体をいたわり、布をもいたわる？！

短期大学 生活実践科学科 教授 菊 永 典 子

はじめに

衣生活をより快適にするために、衣服と身体とのかかわりについて素材の性能や衣服の形と身体の動きとの関係などのお話をしました。また、着られなくなったと捨ててしまいそうな衣服をよみがえらせてほしくて、手軽にできるリフォーム例を紹介しました。

1. 衣服の素材

衣服の素材は天然繊維と化学繊維に大きく分けられます。天然繊維には綿・麻などの植物繊維と羊毛・絹・羽毛などの動物繊維があります。夏にはやはり植物繊維が快適です。植物繊維である綿や麻は何より吸湿性、吸水性、通気性などに優れており、麻はさらに接触冷感、シャリ感なども優れ、一番涼しい繊維といわれています。

冬には保温性が大である動物繊維が最適です。羊毛（ウール）は種類が非常に多く、羊の代表、メリノ種をはじめとし、アンゴア山羊の毛(モヘア)、カシミア山羊の柔毛(カシミア)、アルパカ、ビキューナ、アンゴラ兎毛、ラクダ毛など様々あります。ウール繊維の特徴は繊維自体が縮れながらよじれる特性（捲縮）があり、糸や布にした時かさ高になり、含気性が大で保温効果が高いのです。

また、蚕の作る繭の絹糸(シルク)も繊維の中に空気溝があり保温効果をもたらし、さらに、水鳥の羽毛（ダウン）に至るまでたくさんの種類の動物繊維があります。それぞれに特徴があり暖かい素材です。

化学繊維はというと、化学者にとって天然繊維の中でも最も高価な絹を人工的に作ることが、大きな魅力であったことより、まず、1892年にレーヨン（人造絹糸）、1918年にはキュプラなどの再生繊維が作り出され、その後、天然の繊維素を一切使わずに石油、石炭、天然ガス等を原料として繊維を作る合成繊維がついに発明されたのです。

1938年に、アメリカのデュポン社によって「鋼鉄よりも強く、蜘蛛の糸よりも細い。」と謳われたあのナイロンが発明され、それまでの絹ストッキングにかわりナイロンストッキングの登場となり、絹のような繊維を作ろうとした人類の夢は絹をしのぐ繊維を実現したとも言える程です。継いで、1941年にイギリスでポリエステル、1950年にアメリカでアクリルが開発され、世界三大合成繊維といわれています。なかでもアクリルは毛に似た感触を持ち、軽く、とても保温性に富んでいます。

ところで、保温性とは、いったい何が関係しているのでしょうか？ 実は“空気”なのです。もちろん静止している空気です。空気の熱伝導率は繊維よりも小さく、一番暖かいのです。

布地は空気をいっぱい含んでいて、布地は体積の半分以上を空気でごめられています。布地の保温性は布地を構成している繊維の種類よりも布地の含気量によって左右され、厚地で含気率の大きい布地ほど保温性は高くなります。つまり羽毛布団、ダウンジャケット等が軽くて、暖かいのは空気がいっぱい含まれているからです。

もちろん、衣服の着方にも注意が必要です。布と布の間の空気層がつぶれて無くなるほど圧迫させて重ね着したのでは、窮屈で寒い感覚も覚え、身体への負担を増やし、動作も拘束する等の害に

つながるだけです。衣服と衣服の間の空気層もつぶさないように、どうぞ、冬場は上手に“空気を着て”暖かくしてお過ごしください。

2. 衣服のかたち

まず身体の形態を把握しないと快適な衣服は作れません。身体の形態とは、骨格があって、筋肉がそれを取り巻き、皮下脂肪もあり、皮膚が最表面を覆っています。そしてこの皮膚は体表の保護、体温調節、痛い冷たい暖かいなどの感覚器をもつかさどり、また運動に伴って伸び縮みして自由自在で素晴らしいです。皮膚のような衣服素材があればいいのですが……。また、身体は変化し続けています。年齢による変化であったり、動作による変化であったり、そのような変化の多い身体に追従するような衣服を作らなければならない難しさがあります。

特に動作による変化についてみますと、骨格は滑らかな動きができるように関節からなっていて、関節には、軸関節、蝶番関節、球関節の三種類があり、特に球関節が可動域を大にして、肩関節と股関節です。この部分の衣服の構造は複雑であり、またゆとりが特に大切な部分です。

衣服の布地と言え、編物は伸縮性が10%を超えるものが多く動作に適していますが、織物は2%以下程度で伸縮性は限られています。一般的にはこの織物で衣服を作る場合が多く、必ずゆとりを加える必要があります。動作に必要なだけのゆとりが特に大切なのです。

試着した時、直立不動で鏡の前で検討されている姿をよく見かけますが、色柄の顔移りと入るかどうただけでは不十分なのです。必ず試着をして、胸をすぼめてみたり、椅子に腰かける姿勢を試してみたり、さらにしゃがんでみたり、股関節と膝関節を90°曲げてみたりして下さい。また、腕を前、横、上とぐるぐると回してみる動作もしてみてください。試着室内でいいですから是非やってみてください。これらの動作が窮屈でできなかつたら色柄デザインがとても気に入ってもあきらめてください。ダイエットをしてやせるからとか思っても駄目です。

また時には、試着しないで店員さんに背中に当ててもらおう時も、いい姿勢で見てもらおうのではなくて背を丸めて当ててもらおうようにしてみてください。

こうして着心地の良い衣服を手に入れて、快適な衣生活をしてくださるようお願いしています。

3. リフォーム

さて、大事に着ていたものも年齢による身体の変化とか、またはどこかが傷んで着られなくなってしまうこともあります。そのまま捨ててしまうにはもったいなくて、捨てられないままで残ってしまうことも多いものです。死蔵といわれる衣服をよみがえらせて、また活躍させたいものです。

その時にしてほしいことが、リフォームです。身体へのいたわりと布へのいたわりを是非してほしいです。そこで、ワイシャツやネクタイ、タオルなど身近なもの、使わなくなった衣類などを利用して、エプロン、袋物などの小物、日用品のリフォーム作品例をご紹介します。

おわりに

多くの方に受講して頂き、ありがたい感想まで、嬉しく読ませて頂きました。何か一つでもお役に立てたなら幸いです。わざわざお越し下さいまして熱心に受講して頂きましたこと、どうもありがとうございました。

中国地方におけるサメの食習慣はどのようにして形成されたのか

短期大学 生活実践科学科 准教授 畦 五月

世界的にみるとサメの種類は約 400 から 500 種類生息しているが、日本近海では 120 種類いるといわれている。このうちの日本で食用となっているサメの種類は地域により異なる。アブラツノサメ、モウカザメ、ヨシキリザメ、アオザメなどが主たるサメであり、他にも多種類存在する。

食品学的にみるとサメは、マグロやカツオに比較してタンパク質が少なく、脂質が多い特徴を示す。軟骨魚綱に属し、エラ蓋がなくサイコウと言われるえらが、体の横についている。エイも同じ軟骨魚綱に属しているために食品学的性質が両者は類似している。つまり、両者は体内にトリメチルアミノオキシドと尿素を他の魚類よりも高い濃度で含有している。鮮度低下に伴い、尿素はアンモニアに変化し、このアンモニアにより、鮮度低下が非常に緩慢になる性質を持つ魚がサメとエイである。

サメの近現代において食用となっている地域や調理方法については、以下述べる調査方法で行った。つまり現代は平成 15・16 年に日本調理科学会が実施した「魚類特別調査」のデータベースを使用し、昭和初期から大正時代の調査は『食生活全集』（全 48 巻 農文協出版）を用いた。

現代のサメの食用地域は 29 都道府県あり、東北地方が 44%、中・四国地方が 24%を占めた。食用となっていない地域もあり、近畿の一部、北陸、東海、関東の一部県がそれに該当した。この食習慣は大正から昭和初期も同様の傾向を示している。

その調理法であるが、煮物、刺身・湯引き、汁物、あえ物、焼き物、干物、揚げ物、鍋物、練り物などの多彩な調理法で利用されている。この調理法の傾向は大正から昭和初期とほぼ同じ傾向を示した。地域毎に調理法にも特徴がみられ、煮物、焼き物等は東北地方で、刺身・湯引き、あえ物等は中国・四国地方で食べられている傾向があった。特に広島県や岡山県の山間部では、生の刺身が主たる調理法であった。

次にこれらのサメの食習慣は、いつ頃形成されたのか、江戸時代以前の文献を調査した。弥生時代後期の青谷上寺地遺跡(鳥取県)からは、サメの骨とサメの壺絵が発見されており、食用とただけではなく何らかの重要な意味をサメが持っていたことが推測される。次に食料としての記録は、平城京跡から発掘された木簡(佐米楚割:サメスワヤリ)に見られる。運搬や保存の利便性を計り、

サメは干物にして都に供物として献上され、上流階級の向けの特別な食材として使用された。同様のサメの干物の記録は、『延喜式』等でもみられる。

サメの料理の記録の初出は、管見の限り『四条流庖丁書』(1489年)であり、「ふかはみがらしのす」との記録が残る。さらに『天文三年浅井備前守宿所饗応記』(1534年)の十七献の饗応食の五献目に「さしみふか」と記されている。タイや松茸などの食材に交じりサメが最高のハレの日の食材として使用されていた証拠である。

一方、サメとフカは別種の魚と認識されていたようで、その記録は『本朝食鑑』(1697年)、『和漢三才図会』(1712年)などの多数の書に記されている。その内容から両魚は、外見上の特徴や利用状況で識別していたことが記録されている。さらにサメ(フカ)は下品の魚であり、当時は将軍や大名階級の膳に載ることはなかった。しかし多彩な調理方法で食べられていた魚であり、その調理方法のほとんどは現代に伝承されている。『守貞謄稿』(1837年)において江戸の町に「フカと鳥貝の刺身売り」が登場している記録から、安価で、かつ含有されるアンモニアのために日持ちがするサメが庶民の胃袋を満たしていたと推測される。しかし、各種の江戸時代の刊行の食物本草本を見ても特記する薬効はないし、現代も民間療法としてサメの効能は伝承されていない。

ならばなぜ、中国地方の山間部にサメの食習慣が伝承されているのか。

そのヒントは、『日本水産製品誌』(1894年)の記録にある。同書には、ヒレ(フカヒレに加工するために)をとった後のサメは海洋投棄されていたが、明治20年頃から山陰や東北地方でその廃棄されていた身が利用され始めたとある。島根県浜田で投棄されるはずであったサメが、行商によって、生のまま、干シワカメとともに広島県山間部の三次近辺に運搬された。物々交換により帰り荷には米が海岸地帯に持ち帰られ、これにより双方向の物流が成立した。岡山県でも中和村に鳥取県倉吉から「からすのあきんど」と呼ばれるさる振りによりサメが生で運搬され、雪深く運搬が途絶える時期に貯蔵して、小出しで刺身、塩焼き、雑煮の汁に用いられたという。「正月にワニ(サメ)を食べないと正月が来ない」とも広島県北では言われ、アンモニア臭が人々の味覚を刺激し、これにおいなくしてはサメではないと思われていたようである。

魚食民族である日本人は、「吉日には魚」という“精神的な栄養”の特別な意味を魚に持たせていたと瀬川は述べる(「販女」より)。その特別な魚になり得るのは無塩の海魚であった。保存性を持ち合わせるサメは、生食と現金収入の少ない山間部で物々交換も可能で、その地の嗜好に適合した食物となり得た。そのため、その地にサメの食習慣が形成されたと考えられる。

本要旨は「近現代におけるサメの食習慣」(日本調理科学会誌,48,308-319(2015))の一部内容である。

サッカーボールの黒い五角形は何個あるでしょう？

短期大学 生活実践科学科 准教授 原 田 龍 宜

サッカーボールは正十二面体と正二十面体の中間に位置する図形の一つである。表題の解答は 12 個で、白い六角形は 20 個ある。1985 年にはサッカーボールの形をした分子構造をもつ炭素単体が発見されて、20 世紀末に話題となり C_{60} フラーレンと呼ばれている。至極対称性の複雑な構造ではあるが、3 次元空間の回転には正十二面体やフラーレンよりも複雑な有限対称性は存在しないことが古くから知られている。

このような対称な立体の研究はギリシャ時代までさかのぼると言われていて、現代でも 5 種類しかない正多面体を指して「プラトンの立体」と呼ぶことがある。まずは、正多面体の定義から書くと、凸な多面体で

1. 面を構成する多角形が全て合同な正多角形である。
2. 頂点に集まる面の数がどの頂点も等しい。

となる。これは正多角形の定義から次元を 1 つ上げた書き直しのようにも取れる。

この条件だけで 5 種類に限定される理由は易しいのでここでも省略する。正多角形が無数に分類されると比較すると、次元を上げてでもそれ程多様性に変化がないというのは不思議にも見える。

講座ではポリドロンという立体玩具を受講生に持ってもらって、自らの手で一人につき幾つかの正多面体を作成してもらった。立体を扱うのは平面図形を扱うのとはまた違った感覚を使うということを体験してもらった。正多面体は 5 種類しか無いのだが、立体の多様性は平面上のそれよりずっと複雑であることを自らの手を使うことで感じ取れたであろう。

少し近代的な名前になるがオイラー標数と呼ばれる数がある。現代数学では多様体や単体複体と呼ばれるものに対して不変量として定義されていて、その他様々な特性類（数とは限らない）の先駆けとみなせる。18 世紀のオイラーは多面体についての結果を残したのだと推測される。

$$\text{オイラー標数} = \text{面の数} - \text{辺の数} + \text{頂点の数}$$

と表され、正多面体では必ず 2 になる。この事自体はやはり理由が易しく説明できるが、面白くないので講座では省略した。講座ではオイラー標数が位相不変量になっていることをより近代的なポアンカレホップの定理を紹介しながら、球面でなくトーラス（浮輪型）ではオイラー標数が 0 になることをお話した。なれない人には分かりづらかったかと反省しているが、その後の 20 世紀の幾何学の発展のきっかけになった内容である。

正多面体の対称性と大きな関わりのある正多面体の双対性についても説明した。正六面体と正八面体は双対関係にある。一方の各面の中心を頂点に持つ多面体を考えるともう一方の多面体が出る関係である。このような関係をもつ多面体は同じ対称性を持つ。対称性について抽象的な説明をすれば、三次元特殊直群 $SO(3)$ の有限部分群の話になるが、講演では模型を見て感じ取ってもらうことにした。正十二面体と正二十面体も双対関係になっている。こちらの対称性は位数 60 の 5 次交代群 A_5 となる。一番小さな非可換単純群になっている。模型を見て感じてもらえればそのややこしさを片鱗を伝える事ができた。

講座の残された時間は多面体一般については現代でも研究が続いていることを紹介した。

古代ギリシャ時代には認知されていた正多面体（東洋やインドでも同程度の認識はあったと考え

られる)を西欧における数学の近代化とともに一般の多面体の分類をしようという動きが見られる。

面の形と配置の順序関係が同じなら合同な多面体になるといえるのかという問題について、多面体が凸でない場合すぐに反例が見つかる。正二十面体はある一つの頂点に隣接する5つの正三角形を外して、裏返して付け直すことが出来る。当然正二十面体とは合同にはならない。正多面体の定義に「凸な」と入れてあるのはそのためである。19世紀のコーシーは凸な多面体ではその一意性が満たされると証明した。感覚的には馬鹿げていることのように思われるが、彼自身の証明に欠陥が後ほど見つかっていることを考えると易しいこととも言えない。それ故、正多面体が5種類しかないという事実が精密に証明するのはそれ程易しくもないといえる。正多面体の定義自体を書き換えて「球面に内接する」と限定しておくのも教育上有用かもしれない。

コーシーより時代を少しだけ遡るが先述のオイラーは閉じた多面体は剛性をもつと言い切ったと伝えられている。実際、凸多面体では先程のコーシーの結果から剛性を持つことが分かる。しかし凸でない場合はどうか、先の一意性の反例は不連続な変形が必要であった。連続変形できる(剛性を持たない・柔らかい)多面体は存在するのかという疑問は先送りされたようだ。

柔らかい多面体の発見は20世紀末である。コネリーによってなされた。彼の作った多面体はかなり人工的な作為を上手につなぎ合わせたもので、柔性を持つのは納得しやすい。全体としては複雑なものであり、全体を模型化したものを見たことがない。その後シュテファンがより面の数の少ない柔性をもつ多面体が構成されたが、こちらも模型を作っても動きが小さく分かりにくい。

講座ではこの辺りを概説しつつ、メイソン多面体(図1)を作成して柔構造の雰囲気味わってもらった。受講生の方に触ってもらっているうちに壊れてしまうのが恒例なのだが、柔性を手で触って感じられた方は運が良かったといえる。メイソン多面体は微動する多面体と呼ばれている。無限小の意味で動くのだが、パーツ自体や接合部の僅かな歪みから動いているように感じられる。

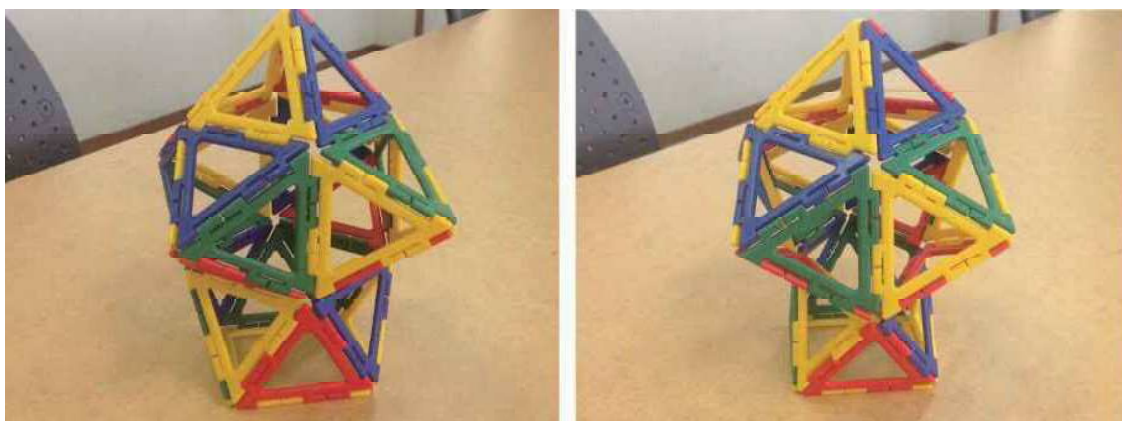


図1 メイソン多面体:「ウエストのくびれ」が変形しているのがわかる。

最後に厳密な柔性を持つ多面体の変形するとき体積を変化させないという1997年のコネリーとサビトフとウォルツによる結果の紹介をした。

後日、ネットで改めて”flexible polyhedron”で動画検索した所、IHÉSの図書館に立派な柔らかい多面体の模型が鎮座しているようである。当然ながら少ししか動いてないが、オシャレなオブジェかもしれない。

母さん、今日英語の時間に現在完了って習ったんだけど、あれって何？

短期大学 生活実践科学科 教授 森 安 秀 之

1. 概要

- ①日本語と英語の例で、文法形式としてのテンス（時制=T）とアスペクト（相）の概念を確認しました。
- ②英語の場合、テンスとアスペクトを全く別物と考えると、動詞の塊の部分の形の上で簡単に整理できることをみました。
- ③テンスを分離しておくと、他のいくつかのことが単純に説明できることをみました。

2. ①について

テンスは「その出来事がいつ起こるか」、アスペクトは「その出来事のどこに注目しているか」の違いがあり、今回は別のものとして考えて、日本語と英語の例をみました。日本語の例を一つだけあげておきます。

- (1) 前回実家に帰るときに、みんなにお土産を買った。
今度実家に帰たときに、みんなにお土産を買おう。

この「る」「た」をどう呼ぶかは別にして、少なくとも「現在」「過去」ではありません。

3. ②について

英語は T（アスペクト） V（日本語は V（アスペクト） T）の配列になっていました。英語の特徴は、Tが（アスペクト）Vの一番左の要素に付くこと、アスペクトが必ず二つの部品のペアになっていること、Vとアスペクトを決まった順番でおもちゃのブロックのように組み合わせていることでした。これも英語の例を一つだけあげておきます（以下の例で最初から入っている *do* は本動詞）。

- (2) T(現在) be+ing do ⇒ T(現在) be do -ing ⇒ is doing
 テンス アスペクト V
 T(現在) do ⇒ 隣合っているので単純に合体 He *does* his homework.

4. ③の1について

Pollock(1989)などの提案の基本部分を使うと、アスペクトの *be/have* のような助動詞は軽いので動くことができるが本動詞は重くて動くことができない、*not* が間に入ると単純に合体するのを邪魔するなど考えることで、否定文は次のようになることを見ました。

後期講座テーマ

「人が育つ 自分が育つ」

(平成 28 年 10 月 1 日～11 月 5 日)

絶対音感は存在しない？ 音の関わり合いについて

教育学部 初等教育学科 講師 安久津 太 一

就実大学教育学部初等教育学科の公開講座で「絶対音感は存在しない？音の関わり合いについて」を題材に、授業を担当させていただいた。以下に当日使用したパワーポイントを交えながら概要を示す。

公開講座は講義とワークショップを組み合わせて実施された。流れは以下のとおりである。

本日のメニュー

- ▶プロローグ：ワーク①②声と音
- ▶「私と音」ライフストーリー
講師の自己紹介と相互インタビュー
- ▶絶対音感や音楽的コミュニケーションの理論的・歴史的背景（研究と演奏の視聴を通して）
- ▶エピローグ：
ワーク③声と音の即興オーケストラ
ワーク④キラキラ星変奏曲

当該講師は 2000 年から 2011 年まで、プロのヴァイオリニストとして、そして音楽教育の実践家・研究者としてアメリカに在住していた。アメリカにおける演奏の専門家として、教育者として、それぞれの立場から、新保守主義の教育改革の潮流や、音楽教育の現代的課題、研究と実践など、さまざまなトピックを扱った。



芸術と教育改革（アメリカにおける現代的課題）



音楽教育 と 研究

Educating the Creative Minds Conference:
Bringing Arts-based Education to Every Child
(in New Jersey, 2010 & 2013)



そもそも絶対音感とは？さらに音楽とは何か？といった、音楽の存在意義を問う根源的な課題にせまった。議論を通して、絶対音感に対して音を相対的に捉える相対音感は、人間に固有の能力であるという一つの仮説が提示された。他者と情報を共有する際にヒトがおりなす相互的な音の関わり合いが、人間に独特だという論点が示された。

吉田松陰のことは

「およそまれてひとたらば
よろしくひとのきんじゅうに
ことなるゆえんをしるべし。」
凡そ生まれて人たらば宜しく人の禽獣に異
なる所以を知るべし

相対音感に人間に固有？動物とは違う？

音楽的コミュニケーションとは

- ▶ 「個人としての『生き延び』だけでなく、世界と関わり、生活に適応する上で、重要な意味を持つ。」（梅田2014）
- ▶ 「他の人と社交して結びつくという協力関係への人間的な欲求。」（Young, 2012）

最後に講師の日常的な音楽教育の実践を紹介しながら、音楽教育の意義や課題について議論が深まった。音を介して人と人がコミュニケーションを取ること、そこには相互的・対話的に、すなわち音楽的に異なる他者が関わり合う、音楽の真髄がある。さらに人間の発達と音楽についての検討がなされた。



音楽と発達

乳幼児の音を介したコミュニケーション
“Arts and Intimacy: How the Arts Began”
(Ellen Dissanayake, 2000)



なお、講義で明らかにされた、我が国の音楽教育が抱える現代的課題は以下のとおりである。

我が国の学校音楽教育における扱い

- ▶ 「歌唱指導においては移動ト唱法を原則とする。
（昭和33年、43年学習指導要領）」
- ▶ 「歌唱の指導については、相対的な音程感覚（など）を育てるため、適宜、移動ト唱法を用いること。」
（平成20年学習指導要領）」

音楽教育がかかえる今日的課題

- ▶ 異なるジャンルとの合奏が困難に。
高度な専門分化の弊害。
- ▶ 純正調と平均律の対峙。
「すべての音程が間違っている！」
「音楽を全く感じていない？」
- ▶ ソルフエージュ訓練の行き過ぎ。
（特に我が国の長所であり短所でもある。）

多くの受講生の中には、同窓生の諸先輩先生方や保護者の皆様の参加もあり、心あたま交流の機会となった。短い時間ではあったが、年齢や立場を超えて、主体的な学びの関わり合いが生まれており、音楽の学びの意義を再認識できる講習となった。貴重な機会に感謝申し上げます。

運動のススメ

教育学部 初等教育学科 講師 飯田 智行

【概要】

平成 28 年 10 月 15 日（土）、本学体育館多目的ホール及びトレーニングルームにおいて、運動の効果について説明した。その後、運動機能テストや軽運動を実施し、参加者の皆さん自身に自分の機能レベルを把握してもらった。

1. 運動不足が引き起こす病気

現在の我が国は、文明の発達により、身体活動量が低下している。身体活動量低下は、虚血性心疾患・高血圧・糖尿病・肥満・結腸がんなどの罹患率や死亡率が高いことが示されている。また、運動不足は認知機能や社会生活機能の低下に関係することも明らかになってきている。

2. ロコモティブシンドローム

日本整形外科学会は、運動器（骨・関節・筋肉など）の障害による移動機能の低下した状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）」と提唱した。ロコモは、進行すると日常生活にも支障が生じるため、運動器を長持ちさせ、ロコモを予防することが重要であるとしている。身体活動量の低下や運動習慣のない生活が運動器を衰退させることから、これらを改善する生活習慣の見直しの必要があるといえる。

我が国は世界有数の長寿国であり、平均寿命は男性約 80 歳、女性約 86 歳となっている。また、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」である“健康寿命”も男女ともに世界一（2010 年）である。しかし、この健康寿命は男性約 70 歳、女性約 73 歳であり、平均寿命と健康寿命の間には約 10 年程度の差が存在する。つまり、約 10 年間は何らかの支援を受ける生活を強いられる可能性が考えられる。要支援や要介護の要因は「運動器の障害」である。

3. 認知機能

高齢社会に伴い、認知機能が低下した高齢者の増加が予想され、その予防が急務な課題となっている。実際に、高齢者の認知機能低下が原因とされる交通事故が増加傾向にある。一方で、有酸素運動などの軽度な運動実施により、注意・集中・行動などの認知機能を支配する部位の活動が高まることなどが明らかにされてきている。

4. 運動の効果

加齢により、運動機能・認知機能の低下、身体構造の変化などが生じる。しかしながら、これらは生物学的上、致しかた無いことであるため、この低下速度をいかに緩めることができるかが重要である。身体活動量や運動習慣の増加がロコモティブシンドローム（運動器の障害）予防や認知機能低下予防になり、これらの予防が健康寿命の延伸につながる。さらに、運動は

メンタルヘルスにも効果がある。

また、最近の研究結果で、生涯を通じて運動習慣を持ち続けることが重要であるが、過去の運動・スポーツ経験がない人でも、現在実施することにより体力や健康に良い影響を与えることが可能であることが明らかにされてきた。つまり、運動を始めることこそが、健康につながることを示している。さらに、ジョギングなどのいわゆるスポーツ活動でなくとも、自身の生活にあった身体活動量（生活活動＋運動）を増加させることで、リスクが低減できるものとされている。

以上のことから、ロコモティブシンドロームや認知機能低下を予防するためには、現在より少しでも身体活動量を増加させることが有効であることがわかる。また、それを継続することにより、健康への効果は大きくなる。そのためには、「気楽に」「安全に」実施することが重要である。



体力測定・運動実施風景

5. おわりに

参加者は40代～80代の20名程度であった。「新しい見解を知れて良かった」「無理せず運動をしていこうと思う」「現在の自分の体力を知れて楽しかった」など、好評を頂いた。参加して頂いた皆様に、今後、「無理せず」「楽しく」身体活動量をあげて、健康な生活を送って頂きたい。また、家族や友人とも一緒に実施し、健康の輪が広がっていくことを期待したい。

引用・参考文献

- ・「ロコモパンフレット 2015年度版」公益社団法人 日本整形外科学会
- ・「健康づくりのための身体活動基準 2013」厚生労働省

親子を支えるつながりづくりの実践とその可能性 —地域子育て支援拠点事業の実践を事例として—

教育学部 初等教育学科 准教授 村田 恵子

少子高齢化が進行する中で、「子育て支援」の重要性が説かれるようになって久しい。本講座は、今必要とされている「子育て支援」とは何か、子育て支援が求められるようになった背景や県内の実践事例等について話題提供を行い、それを踏まえてグループワークで参加者同士が自身の体験などを交流しながら考える機会とすることを目的とした。

1. 子育て支援とは何か

様々な文脈で用いられている「子育て支援」であるが、ここでは、「子育てという営みあるいは養育機能に対して、私的・社会的・公的機能が支援的にかかわることにより、安心して子どもを産み育てる環境をつくとともに、子どもの健やかな育ちを促すことを目的とする営み」であるとすると大豆宇田による定義（大豆宇田啓友『支え合い、育ち合いの子育て支援』関東学院大学出版会、2006年）を紹介した。大豆宇田は、上記のような営みである子育て支援を、『親育ち』支援であり、『子育ち支援』であり、『まち育て支援』である」とする。「子育て支援」とは、子どもを育てる役割を第一義的に担う親を支え、子ども自身の育ちを支え、さらに「まち」を育てることまでを含む実践なのである。

2. 子育ち・子育てをめぐる環境の変化

上記のような支援が求められるようになった背景に目を向けてみよう。自然環境の変化、地域コミュニティの崩壊（多様な人のつながりの減少）、医療・生殖技術の進歩、情報環境の変化、経済的格差の広がり等、様々な環境の変化が、子育ち・子育てのあり様に影響を与えている。

たとえば、子どもたちの育ちの様子に関する調査（ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケートレポート」2016年）では、2005年と比較したとき、2015年のデータでは、1歳児・2歳児の「家族やまわりの人にあいさつする」という項目、4歳児・5歳児の「おはしを使って食事をする」、3歳児・4歳児の「おむつをしなくて寝る」といった項目で、「出来る」という回答が大きく減少していることが指摘されている。原因は明確ではないが、上二つは家族意識や、家庭の生活習慣の変化が背景にあるのではと、おむつについては、新しいトレーニングパンツなどの商品の登場もありトイレトレーニングの煩わしさを回避する意識が強まっているのではないかと考察されている。また、メディアとの接触経験に関する項目では、2005年には項目にあがっていなかった「スマートフォン」「タブレット」が、メディア環境の項目として新たに登場し、とたんに、かなり高い率で子どもたちの周りに存在するようになったことが指摘されている。1歳半の段階で、既に一人でこれら进行操作できる子どもが2割をこえているなど、情報環境の変化が子どもたちの生活に確実に浸透しつつあることがわかる。

次に、親による子育ての様子に目を向けてみると、特に三歳未満児のいる世帯では圧倒的に自宅で過ごす子どもが多く、母親が主な担い手として育児に強い負担感・孤独感など否定的な気持ちを抱いていることなどが（ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケートレポート」2016年）

示されている。その背景には、やはり親世代の子育てに関わる生活体験の不足（独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」2012年）や、子育て世帯の減少など社会的な環境の変化が存在していると考えられる。

このように、現代の子育ちや子育ての困難は社会的背景のもとに生まれているものであり、「子どもを産み、どのように育てていくのか」ということは、個々人の個別能力の反映というよりは社会が有している能力の反映であり、個々の親はそうした社会の育児能力と呼ぶべきものをいわば『分有』しているにすぎない」（汐見稔幸『親子ストレス—少子社会の「育ちと育て」を考える』平凡社、2000年）ことを確認しておきたい。さらに、そこで求められる支援とは、親の子育てを肩代わりしたり、あるいはその外注化を促したりするものではなく、その不安感を軽減する経済的支援の拡充や父親の長時間労働の是正、世帯外育児ネットワークなど、親の育児を側面から支えるものであることが重要である（汐見前掲書、松田茂樹『何が育児を支えるのか—中庸なネットワークの強さ』勁草書房、2008年など）。

3. 子育ち・子育て支援の実践事例—県内地域子育て支援拠点の取り組み—

上記のような視点を押さえた子育て支援の実践事例として、県内における地域子育て支援拠点の取り組みを二つ紹介した。2009年より児童福祉法に児童福祉事業として位置づけられた地域子育て支援拠点事業には、①子育ち・子育てを直接支える（支え合いの場）、②子育て・子育ちを中心に、様々な事柄について学び、共有する（学習の場）、③地域の人々との接点をつくり、子育て・子育ちを支えるネットワークを創出する（つながりの場）としての役割が期待されている。今回紹介した事例（地域子育て支援拠点「わくわくる一む」、地域子育て支援拠点「森の冒険ひみつ基地」）は、子育ちへの支援と親育ちへの支援を核に、子どもが育つ環境としての地域コミュニティを新たに創り出す場に成長している点で先駆的なものである。

両者に共通する特徴を抽出すると、子育ちへの支援という点では、①子どもの発達をふまえた遊び環境の用意（子どもが自ら存分に遊びこむことの出来る環境の用意）、②異年齢の子ども同士の自然な交流を挙げることが出来る。特に、どちらも外遊びの環境が整っていることが特徴的である。「わくわくる一む」は、主に3歳未満の低年齢児のための環境が用意されている。「森の冒険ひみつ基地」は、「自分の責任で自由に遊ぶ」という理念を掲げるプレーパークとして出発していることもあり、学童期まで含む年齢的に幅広い子どもたちの遊び場となっている。どちらにおいても、年長の子の姿をみて年少の子が自らの遊びを発展させていくといった光景を、「当たり前」に見ることが出来る。親育ちへの支援という点では、①親同士が子どもの育ちや子育てについて学び合う機会を重視していること、②親が自分に出来ることを考えて自ら行動することを支援している点を挙げることが出来る。子育てという営みを、親自身が豊かにしていけるような取り組みが行われているのである。さらに、二つの拠点とも、そうした親子への支援を中心に置きながら、地域の人と人を結び支え合う新たなネットワークを紡ぎ出していることが注目される。それは、子育て世代に限定しない様々なニーズに応じた広く緩いつながりであり、子育て支援の活動が地域コミュニティの再構築という取り組みへと発展していることを示唆している。

本講座の参加者は、既に子育てを終えられた世代の方が多かったが、子育て支援の活動が、多様な人々が支え合う地域づくりにも大きな役割を果たし得るものであることを知っていただき、関心を持っていただけたらと願っている。

よい授業、よい教師とは？

教育学部初等教育学科 教授 丹 生 裕 一

今日の公開講座では、私が担当する「国語科教育」の講義を受講する、これから教師を目指す学生に必ず語って聞かせる私の体験談をお話しします。

当時、私は、熊本県で教師生活十年目を迎えた、いわゆる熱中教師でした。それまでに勤務した二つの小学校では、それぞれのサッカー部を鍛え上げて県大会で優勝させる一方、様々な国語教育研究会で実践事例を発表したり授業を公開したりしていました。そういうわけで、私の名前は教師たちの間に知られようになり、私は、そのことを満更でもなく思っていました。

— 中略 —

一方で、博士の学位を所得したころから、私は、これまでの研究や実践を通して身に付けてきたことを誰かに伝え、残したいと思うようになりました。悩んだあげく、大学の教官となって、研究を進めながら、学生たちに国語教育について教えることを決意しました。そして、この就実大学にやってきたのです。

しかし、就任して間もないころ、講義が終わると、どうしてもぬぐいきれない不安が私に忍び寄るのでした。あの、19年前の、私の人生を変えるきっかけとなった前田さんの言葉です。『何をどのように教えるか』を追求するだけで、本当にいい授業ができますか？』と、やっぱり前田さんは言うような気がしてならなかったのです。

「本当にいい授業」の何たるかに自信を持って答えることのできない私が、学生にそれを語るのかと思うと、胸が苦しくなりました。その罪悪感に近い不安は度々やってきては、胸の上の方に黒くまとわりつくのでした。

そうなると、ふるさとに、家族や御船小学校の子どもたちを残してまで、岡山に来るべきだったのかという後悔までが頭をもたげました。時々夢を見たのです。夢の中で、この前まで担任をしていた5年1組の子どもたちが、体育館のステージの上で、学習発表会の劇の練習をしています。それを後ろの方から見ている私は、「ああ、早く指導をしなきゃ。」と前に一步踏み出したところで目が覚めます。また別の日の夢では、5年1組全員で大縄跳び大会の練習をしているのですが、すぐに引っかかってしまい困っています。私が声をかけようとする、やはり目が覚めてしまいました。そんなとき、私は「俺はあの子たちをほっぽって、こんなところで何をしてるんだろう」と激しく心を揺さぶられるのでした。暗い部屋のベッドの上にしばらく座り込んだままだったことは一度や二度ではありません。

日は流れ、就実大に勤め始めて三ヶ月ほどが過ぎました。大学から一步外へ出ると話す人もいない私にとって、講義をする時間だけが生きがいようになっていました。

そんなある日のことです。

これまたご存知のように、私は、毎回の講義の後で受講生に学んだことを短いレポートに書かせていますが、いつものように1年生の「国語Ⅰ」の講義を終え、彼ら書いたレポートを抱えて研究室に帰ると、早速、それらを読み始めました。すると、ある受講生が書いたレポートに、講義の内容と直接には関係のない、意外なことが書いてありました。

「丹生先生がいつも楽しそうに授業をされるから、わたしも教師になりたいくなりました。」

読んだ瞬間、私は動けなくなりました。その学生の心の変化はとても尊いことのように思えました。それが私のおかげだと言ってくれている。私は椅子に座ったまま、五十を過ぎたおじさんのくせになんとか泣きたくなってきました。

その後も、同じようなことが書かれたレポートを時々目にするようになりました。そして、とうとう、私は「本当にいい授業」とは何だったのかが分かったような気がしました。

私はこれまで、国語の授業では「何をどのように教えるべきか」を、事例を示しながら具体的に教えてきましたね。それが教師の仕事であると。しかし、私には、あなたたちに、もう一つ伝えておかねばならないことがあるようです。

それは、教師は自分自身の豊かな生き様や心のあり方によって別の大切な何かを子どもたちに教えているということです。

その証拠に、私の毎回の講義の内容だけでは、あのレポートの一言を書かせることはできなかったはず。しかも、この一言がどれだけ大きな意味を持つものか！今、自分探しの只中にいるみなさんにはよく分かると思います。

そのような授業こそが「本当にいい授業」であるなら、人の心を映し出すものに、芸術も教育も関係ないでしょう。

今度、前田さんにお会いするときに、あのレポートを見せるつもりです。今度はきっと、「やっと、少しはましな授業ができるようになりましたね。」と言ってくれると思います。

話は少し変わりますが、ここで、物語「桃花片」の続きをちょっとだけ考えてみましょう。「楊」は、すっかり年老いてから、ずっと追いかけていたものに気づくことができました。それはずっと彼のそばにあったのでした。では、その後の彼は、遠回りしてしまった自分の人生を後悔したでしょうか。自分の人生の大部分は無駄だったとうちひしがれて死んでしまったのでしょうか。

いいえ、私はそうは思いません。私には分かるのです。だって、私は、はからずもこの物語の最後までを生き直してしまったのですから。「楊」がそれまでの気の遠くなるような努力を続けたからこそ、「楊」の心は真実を受け入れることができたのです。私も、私の野心的で貪欲な教師人生があったからこそ、岡野さんや前田さんや他の多くのすばらしい人たちと出会い、全力で何かに取り組む合う経験を何度も何度も重ねるうちに、教師として真に大切なものをいつの間にか心に宿していたのでしょうか。

ですから、みなさんも、自分を磨くことであればどんなことでもいいから、多少不純な動機が混ざっててもいいから、夢中でやってください。たとえ、それが悲しい結果に終わったとしても、報われなかったとしても、教師にとって無駄な努力なんて存在しないのです。なぜって、すべての努力の結果、それがうれしことでも、悲しいことでも、誇らしいことでも、惨めなことでも……、その一つ一つに勇気づけられたり、その一つ一つを乗り越えたりしながら次の一步を踏み出すとき、気高くて、強くて、あたたかい「何か」があなたの魂に刻み込まれます。そして、その「何か」は、将来、あなたが勤務する園や学校での毎日の教育活動や授業の中で、あなたの魂に肌で接する子どもたちの心をほんの少しだけ動かすでしょう。やがてそれが積み重なって、にわか仕込みの指導技術ではどうすることもできない、意義深く、尊い変化をその子どもたちの心の中に生むのです。

そうしてあなたの魂の一部を移した教え子たちの成長していく姿は、あなたがこの世に生きた証だとは思いませんか。私はそんな気がします。だから、教師という仕事には人生をかける価値があると私は思うのです。

学校園のメンタルヘルス —子供と親と先生のストレス，健康，幸福について—

教育学部 初等教育学科 准教授 高木 亮

学校園のメンタルヘルスと題して子供と親，保育者・教師を中心にストレスと健康，幸福についての基本的な概要を紹介した。

1. メンタルヘルスとは

(1) 似ているけど全部異なる，“ストレス” “メンタルヘルス” “健康” “幸福”

ストレスとは「生きる苦痛」全般のことを指し，メンタルヘルスは「心の健康」（広義のメンタルヘルス）を指すが，近年は「心の病気の治療と予防」（狭義のメンタルヘルス）を指すことが多い。健康とは「心と身体と社会性の Well Being」を指すが近年は「QOL」や「Wellness」など概念が複数存在し混乱気味である。幸福は現在心理学研究上も定義が充分できていない。

(2) 狭義のメンタルヘルスと広義のメンタルヘルス

広義のメンタルヘルスと狭義のメンタルヘルスを増田ら(2011, 図1)の理論を紹介した。特に狭義のメンタルヘルスはあるふれた心の病気の治療と予防に限った議論であり，広義のメンタルヘルスは幸福追求のための健全な努力であることを強調したい。あわせて，幸福追求のための健全な努力は“開発的アプローチ”や“構成的アプローチ”とも呼ばれ，これは教育関する概念とほぼ同義である。

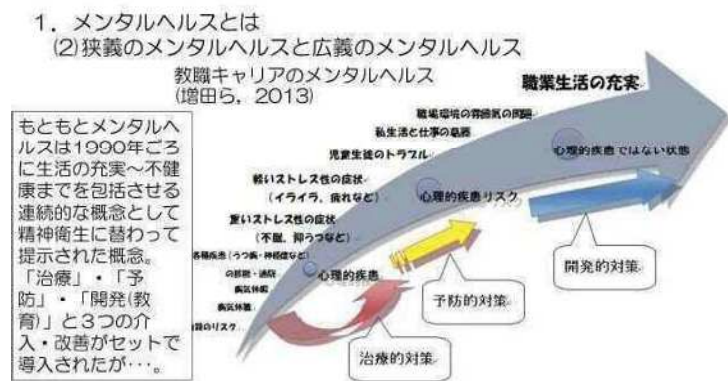


図1. 増田ら(2011)のメンタルヘルス論

2. ストレスのはなし

(1) 不健康予防としてのストレス

ストレスを原因であるストレスラー，結果である心理・身体・行動のストレス反応，ストレス解消行動であるコーピング(ストレス対処)という3つの過程を基にそれぞれのリスクや対応について紹介した(図2.)。病理的な状態としてストレス反応の諸問題とともに，コーピングにおける依存症(アディクション)が存在することも注意しておきたい。

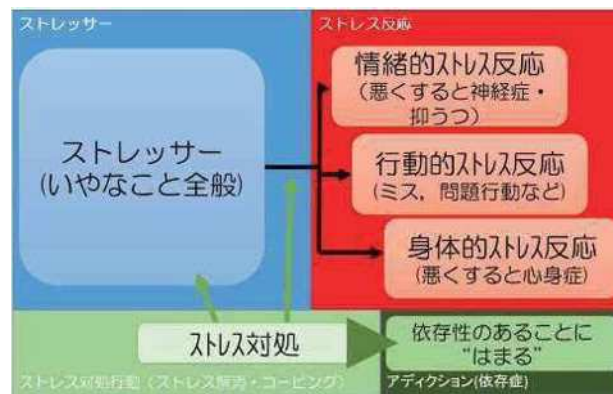


図2. ストレス過程の諸概念(筆者作成)

(2) ストレッサーとの付き合い方

人間には適度なストレッサーは必要であり、適度で有意義なストレッサーと上手く付き合うことが幸福と健康のキー概念になるという近年の研究成果を紹介した。その上で、ハーディネス(ストレッサーへの耐性)やレジリエンス(ストレス等への復元力)などの心理学で現在注目されている概念についても尺度構造とあわせて紹介を行った。

3. 健康と幸福のはなし

(1) まだ心理学は「幸福」を定義できていない

近年の心理学における「Happiness」研究や「ポジティブ心理学」研究の議論を紹介し、幸せを感じる仕組みであり心理が多様かつ個性的で複雑であることを紹介し、未来に向けた健全な生活や生活姿勢の意味を強調した。あわせて、日常的なストレスと幸福に関する留意事項として最新の心理学・教育学の提言である兵庫教育大学藤原忠雄教授の提言する仕事・家庭・健康の両立またはバランスを探るというモデルの提案(図3.)を行った。

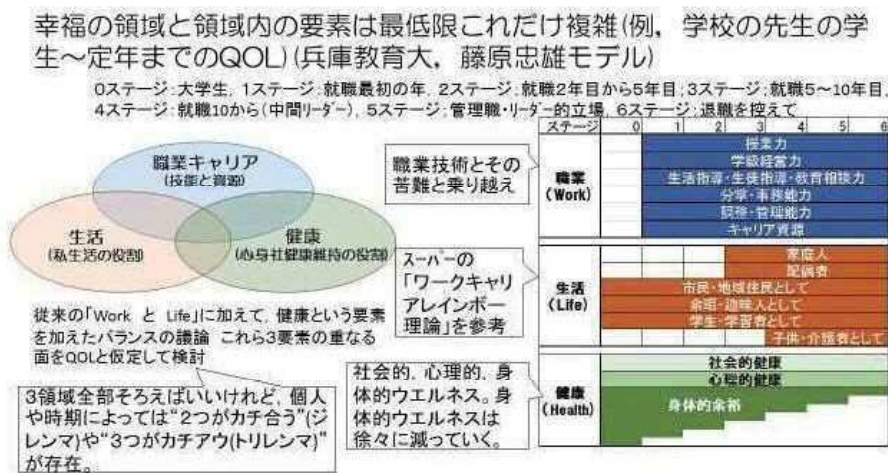


図3. 教師の一生涯を想定した QOL モデル(藤原教授作成)

一方で、心理学における課題として狭義のメンタルヘルスを超える広義のメンタルヘルス全体の議論や幸福に関する概念が十分に議論ができていないことを取り上げた。また、そもそも心身の病気の根絶が現実的な議論ではない以上は“病気や病理と付き合いつつの健全さの追求”という発想が今まで欠けていたことなどを今後の課題にとりあげた。その中で、仕事(職業キャリア)と私生活、健康の“可能な限り多く”または“必要に合わせてどれかの領域に妥協してでも追及する必要がある領域の確保”などについて議論することが今後有益であることを提案した。

【引用・注釈】

藤原忠雄 2011「基調講演 教師のメンタルヘルス」日本学校メンタルヘルス学会第14回大会
 増田健太郎・露口健司・高木亮 2011「教師のメンタルヘルス」『教育と医学』695, pp. 56-85
 就実大学初等教育学科3年高木ゼミ生 2016「保育教職志望者のキャリアと日常」『【自主シンポジウム】保育教職キャリアを支える対人関係資本』日本教育心理学会第58会総会

【付記】

本講座は科学研究費補助金「教職キャリアにおける発達課題の基礎研究」(挑戦的萌芽研究, 16K13542, 代表: 高木亮)の助成を受けた最新の研究成果を報告している。

就実公開講座「理科的に生きよう～ Science For All～」

教育学部 初等教育学科 准教授 福井 広和

多くの成人にとり理科は「何だか難しそうで自分とは無縁のもの」と捉えられているようです。しかし、本当にそれで良いのでしょうか？ 本講座では、人間の脳の働きの特徴をもとに暮らしを便利で豊かにするための『理科』との付き合い方について論じました。

1. 見れども観えず

人間は五官のうち、ほとんど視覚と聴覚からの情報のみに頼って暮らしていると言われていています。しかしながら「コンセントの穴の大きさは左右同じでしょうか」と尋ねてみると、多くの人が同じと答えます。実際には図1の通りアース線になっている左側が長いのです。このほかにも信号機の青灯の位置や大根の側根の生え方など何度も見ているはずなのに、正確に記憶している人が意外に少ないことに驚かされます。人は目をあけて見ているようでも、詳細には観ていないものなのです。



図1. コンセントの穴

2. 脳はすぐ休む

人間の脳は身体の約2%の重さしかないのに20%ものカロリーを使う大食漢の臓器です。将棋の棋士は一步も歩かないのに一局で2、3kgも体重が減ると言われています。このエネルギー喰いの脳を常に全力で使うとすぐに倒れてしまうので、自分にとっての重要度を自動的に判断して効率よく脳を休ませる省エネ機能が備わっています。

例えば階段を昇る時、目のセンサーが階段の段数・角度・高さ・奥行き…等を測定し、データを脳に送ります。脳は無駄なく体を動かすための最適なプログラムを作成して全身に指令を出します。手足は与えられたプログラムに従って働き、一段目に足をかけた瞬間に足裏のセンサーがミリ単位で誤差を測定し、プログラムを修正します。そして、二段目に足をかけて修正プログラムが正しいことが確認できると、センサーも脳の演算も停止し、パワーセーブモードのまま残りの段を昇ります。その間、階段のことは意識せずに他のことを考えたり、話をしたりすることができるのです。脳の省エネ機能は人工的な都市空間ではたいへん有効な方法です。ただし、山道など自然の中には規格通りの繰り返しはなく、刻々と変化する状態に合わせて、センサーも脳も働かせ続けなければいけません。

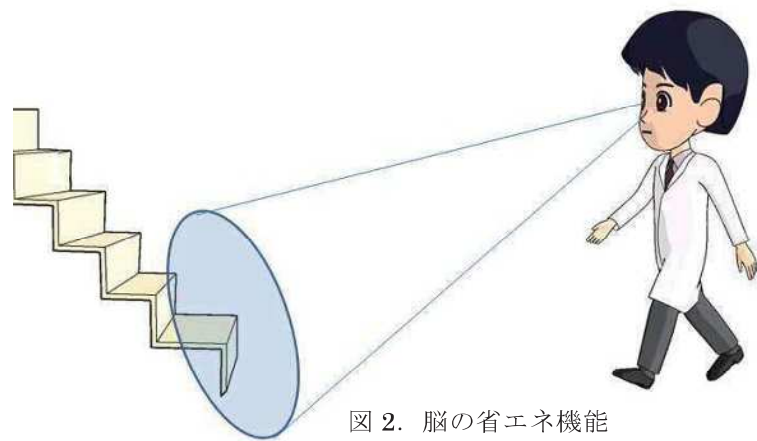


図2. 脳の省エネ機能

3. 考えないことの危険

「DHMO (Dihydrogen Monoxide : 一酸化二水素) という物質があります。これは無色、無臭、無味ですが、毎年無数の人々を死に至らしめています。ほとんどの死亡例は偶然DHMOを吸い込んだことによるものですが、依存症者にとって禁断症状は死を意味します。DHMOは酸性雨の主要成分であり、多量のDHMOが世界中の河川、湖沼で発見されています…。」とこのような解説をTVのニュースで聴いたらどうでしょうか？ 恐ろしいDHMOをすぐ規制して欲しいと感じたことでしょう。

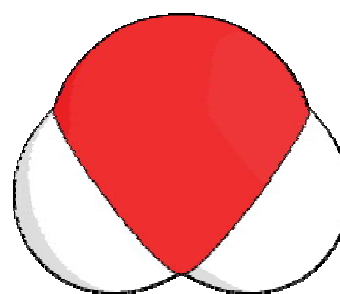


図3. DHMO分子

DHMOとは「水」のことです。よく読んで下さい。上掲の説明では何ひとつ嘘は言っていません。

政治も経済も、そして科学も、現代文明は高度に発達しており、一般市民には理解しがたい問題が次々に話題になります。貿易摩擦、原子力、国際紛争…どれもすぐには理解できないことですが、民主主義の国では決して人任せにはできません。私たちの一票で未来は決まるからです。

4. アクティブラーニング

現在、教育界では「アクティブラーニング」という考え方が注目を浴びています。先生が教えることを黙々とノートに写すような受動的な学習ではなく、課題に向かって生徒自身が主体的に学ぶ。人との関わりの中で多様な考え方や価値観を擦り合わせ、協働的に問題を解決していく。こうした深い学びをアクティブラーニングと言います…と言うのは簡単ですが現実には難しいです。なぜなら前述したように人間の脳は省エネにできていて、なかなかアクティブにはならないからです。一人一人の興味・関心を喚起して、解決したくなる課題をつかませ、友達と協力しながら計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Act)のサイクルが発展し続けるよう支援することのできる教師を教育学部では養成しています。



図4. 生涯理科に向けて

5. 生涯理科

私は『生涯理科』という考え方を提唱しています。理科が科学者を頂点とする一部の才能や機会に恵まれた人だけのものではなく、性別・年齢・職業などに関わらず全ての人にとって人生を賢く豊かにしてくれるものだと信じているからです。未来を選択しなければならぬ時、理科は嘘や噂にだまされず、客観的に考え、合理的に判断する力を与えてくれます。また、日常の様々な問題に対しても、仮説をたて、実験的に行動することで解決への手だてを与えてくれます。動植物との関わりは自然の巧みさや美しさ、命の尊さを実感させ、自然を愛し守ろうとする心や人知を超えた自然の摂理に畏敬の念をもち、謙虚に生きる姿勢を与えてくれます。

理科を特別なものではなく人間形成の一翼を担うものとして位置づけるには、まず幼少期に多様な「原体験」を積み重ねてあげることが大切だと思います。それも人工物相手ではなく、可能な限り自然の事物現象を触覚・嗅覚・味覚の三官を通して触れさせること。そこから生涯に続く理科との関わりが始まるのだと考えます。

文化財講座

(平成 28 年 5 月 21 日)

神戸の地場産業を巡る

—豚まんづくり体験と灘酒蔵見学—

人文科学部総合歴史学科 教授 吉本 勇

2016年5月21日（土）に本学文化財講座が開催された。（参加者は33名）表題のテーマで、「北野工房のまち」、「南京町」、「菊正宗酒造記念館」、「白鶴酒造資料館」を訪ねた。兵庫県神戸市は開港以来、外国文化が根づいた街であるとともに、古くから「灘五郷」として広島・西条、京都・伏見とともに西日本有数の酒造地帯でもあります。本講座ではその魅力の一端を堪能することを目的として実施した。今回は参加者33名と本学の総合歴史学科教授の吉本が案内役となった。午前8時頃に就実大学正門を出発して山陽自動車道を走って神戸へ向かった。

*見学先

「北野工房のまち」、「皇蘭での豚まんづくり体験」、「南京町」、「菊正宗酒造記念館」、「白鶴酒造資料館」（なお昼食は南京町の台湾料理店）

① 北野工房のまち

旧居留地と北野町異人館街を結ぶトアロード沿いにある。この施設は1908年開校の旧北野小学校の跡地にある。北野小学校は児童数の減少と阪神淡路大震災などの影響によって隣接の小学校とともに統廃合された。市が校舎を保存し、1998年に神戸ブランドを集めた体験型工房を設置。校庭が異人館街観光の大型バスの駐車場として生まれ変わった。これによって異人館街への徒歩によるアクセスが向上した。この施設内には1階から3階にあった旧教室や講堂を利用し、衣食住、雑貨など約20店舗の神戸ブランドのアンテナショップや有料の体験教室が入居している。

② 豚まんづくり体験（北野工房のまち内）

南京町にある皇蘭の指導の下に約40分間豚まんの手づくりを体験した。用意された材料を使って数名ずつのグループに分かれ、材料を皮で包むまでの工程を楽しめることができた。出来上がった豚まんは蒸された後、袋に包まれた状態で夕方に岡山へ戻る途中に立ち寄り、受け取った。

③ 南京町

横浜中華街、長崎新地中華街とともに日本三大チャイナタウンの一つである。東西約200m、南北110mの範囲に100店舗以上の中華料理店のほか食材販売、スイーツ、土産店などが建ち並んでいて、週末や休日には多くの観光客が訪れる。東と西、南側の出入口に中華門があり、北側は元町商店街につながっている。

1868年に神戸港が開港し、外国人居留地（現：大丸と神戸市役所との間）が設けられた。当時は清国との間には通商条約を結んでいなかったため、華僑は西洋人たちが多く居住した居留地内に住むことが許されずに、西隣に住み始めたのが始まりである。1981年の環境整備による広場の設置や楼門の設置などによって観光地化が進んだ。講座当日

も、昼食前後に多くの観光客でにぎわう様子を見て驚きました。

④ 菊正宗酒造記念館

旧酒造記念館は、1659年に神戸・御影の本嘉納家本宅屋敷内建てられた酒蔵を1960年に現在の場所に移築し、酒造記念館として保存・一般開放したものである。館内には国指定重要有形民俗文化財「灘の酒造用具」や所蔵する小道具類を展示している。旧酒造記念館は1995年の阪神淡路大震災によって倒壊したが、1999年に復興オープンした。屋根は本瓦葺、外壁や塀は焼杉張り使用で伝統的な酒蔵を再現している。ここでは館員によるユーモラスを交えた解説していただいた後、参加者が楽しみにしていた試飲コーナーで利き酒も堪能した。

⑤ 白鶴酒造資料館

大正初期に建造され、1969年まで使用された本店壱号蔵を改造して建てられた資料館である。館内は黒褐色にくすんだ支柱があり、落ち着いた雰囲気が漂っていました。昔の酒造りの工程に従い、蔵人が作業する姿を人形で再現、実際に使用された道具を忠実に再現しています。機械化されていなかった時代の蔵人たちの創意と工夫、情熱が伝わってくるような演出がなされていました。ここでも試飲コーナーで利き酒を楽しむことが出来ました。

灘の酒蔵地帯は、工場からの日本酒の香りが漂うことから「灘五郷の酒づくり」として環境省が選定した「かおり風景百選」に選ばれている。ここを通り抜け、午前につめた豚まんを受け取ったのちに帰路につきました。幸いに天候に恵まれ、各種見学先などについてのアンケートによると、参加者からは概ね好評であった。また、良く訪れている神戸とは違った側面を見ることができたと思う。まだまだ神戸には魅力的な地場産業や町並みが存在しますので、この講座に参加したことにより、興味を持っていただければと思います。最後になりましたが、暑い中参加して下さった受講生の皆様方に感謝する次第である。



豚まんづくり体験



酒造り道具の見学

学科・研究所・センター等主催事業

主	催	就実大学表現文化学会		
行	事	公開学術講演会「世界中の33言語で読める源氏物語」		
講	師	就実大学人文科学部表現文化学科		
日	付	平成28年11月26日	場	所 R501
対	象	者 一般・本学学生	参	加 人 数 210名
概要				
<p>伊藤鉄也先生をお招きして、公開学術講演会「世界中の33言語で読める源氏物語」を開催しました。伊藤先生は総合大学院、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構国文学研究資料館教授で、源氏物語本文の研究を核にして世界文学としての源氏物語の普及活動に取り組んでいる先端研究者の一人です。</p> <p>今回の講演は、諸言語への翻訳状況を具体的にお示しになり、源氏物語が海外諸国でいかに多大な興味・関心の対象となっているか、という内容でした。講演にはA4版29頁に及ぶ資料と先生の収集なさった諸言語の翻訳本に実物31点を展示すると同時に、手に取ることまでも許可して下さる程の配慮でした。</p> <p>一般来聴者を含め210名の参加者は、熱心に耳を傾けていました。源氏物語が日本の古典であるにとどまらず、世界の古典文学としての価値を有することの認識を得たのではないのでしょうか。</p>				
				

主 催	人文科学部・実践英語学科		
タ イ ト ル	ITCL 第43回日本公演 就実大学公演『テンペスト』		
実 施 者	International Theatre Company London		
日 付	平成28年5月18日	場 所	本学 R601 教室
対 象 者	学生、教員、一般	参 加 人 数	450名

概要（本文・写真・図等）

2016年度就実大学実践英語学科主催 International Theatre Company London によるシェイクスピア演劇 *The Tempest*（『テンペスト』）の公演が5月18日（水）午後3時30分より R館601 講義室にて行われた。

舞台は夢幻的な雰囲気を漂わせる孤島。その島を支配するプロスペローはかつてミラノ公爵であったが、国を追われて娘のミランダと共に暮らしていた。復讐を企てナポリ王とミラノ大公たちを乗せた船を難波させるために、妖精エーリアルに魔法を使わせ嵐を起こした。そして漂着したナポリ王子ファーディナンドと娘ミランダを会わせ、最終的に妖精たちに仮面劇を上演させて婚約を祝福する。

人間と精霊、美と野獣、野心と愛などの相反する登場人物やテーマを限られた俳優と演出で見事に表現していた。実際に嵐が起きているように錯覚させる小道具を駆使した俳優の身体表現やマイクによる効果音によって、台詞を支える視聴覚的要素が強調されていた。台詞もまた強弱が明確に発音され、シェイクスピア演劇の言葉の響きが舞台上の情景と美しく調和していた。

本公演は毎年実践英語学科の学生だけでなく、一般の方々にとっても無料で本場の演劇に触れる絶好の機会となっており「他大学にはない魅力ですから是非続けてください」という声を多く頂いた。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	就実大学実践英語学科 TOEIC600 点突破公開講座		
講 師	和栗 了 (就実大学教授)、 田淵 博文 (就実大学教授)		
日 付	平成 28 年 6 月 4、11、18、 25 日	場 所	S101
対 象 者	本学大学・短大生、高校 生・大学生・一般社会人	参 加 人 数	50 名程度

概要

本年度 6 月 4 回の土曜日 (4、11、18、25 日) に「就実大学実践英語学科 TOEIC テスト 600 点突破公開講座」を実施し、好評のうちに無事終了することができた。2008 年度に第 1 回を実施して以来本年度で 8 回目となり、TOEIC テストに関する関心と需要の高まりを感じる次第である。

例年と同じく岡山市内や県下の高校、公民館に対する案内、また新聞や情報誌などへの案内を行い、参加希望者への案内を行った。今回は昨年に比べ、参加者の応募が少なかったが、社会人の方を中心に、最後まで出席して下さる方の割合が高く、やりがいのある内容となった。

リーディングパート (4、11 日) を和栗教授が担当、リスニングパート (8、25 日) を田淵教授が担当で実施し、好評の内に講座を終了することができた。両講師とも実践的な英語指導に関する経験が豊富で、参加者の反応も良好であった。

今回の内容としては TOEIC テストの中でも特に実践的な語彙・熟語などの習得や聞き取りのポイント等、即戦力に結び付く内容指導が特色であったと考えられる。最後のアンケートにも殆どの方から好評を賜り、「実践的で実力が付いた感じがする」、「効率的なやり方が分かった」「すぐに TOEIC を受けてみたい」等、ご意見を頂くことができた。高校の行事予定が重なったり、時間の都合が付かずに参加できなかった方もいたようであったが、来年度以降もさらに多くの方の参加を期待し、調整と内容充実に向けてゆきたい。



主 催	実践英語学科		
行 事 名	英語圏文学のなかのオーストラリア文学：グローバリゼーションと文学		
講 師	有満 保江 同志社大学グローバル地域文化学部 名誉教授		
日 付	平成 28 年 11 月 19 日	場 所	就実大学 T611
対 象 者	実践英語学科学生・ 教員・学外の方	参 加 人 数	150 名

概要

Professor Arimitsu began by showing a series of world maps in order to point out how our image of the world changes according to our viewpoint. Because each country or area tends to use a map centered on itself, North American, European and Japanese world maps all look different. Most striking for students was the ‘upside down’ Australian map, with Australia at the top and in the center. She went on to explain that just as each country sees the world from a different viewpoint, individuals see their society and its place in the world in different ways depending on their national, ethnic and cultural background. Globalisation is the result of the breakdown of national, ethnic and cultural borders. In a globalised age, societies, and therefore the literature that they produce, have become multi-ethnic, multicultural, multilingual, and multi-religious. This is especially true of Australia with its strong history of migration. To illustrate this concept, Professor Arimitsu talked about the variety of viewpoints presented by Australian authors such as Patrick White, Peter Carey, Helen Garner, Kath Walker, Brian Castro, Nam Le, B. Wongar and Helen Demidenko. She concluded by saying that because various ethnicities, cultures and languages coexist within the nation, it is no longer possible to ascertain the ethnic, cultural or linguistic identity of authors just from the contents of their works.



主 催	考古学クラブおよび就実大学史学会（総合歴史学科）		
行 事 名	考古学クラブ・就実大学史学会共催講演会		
講 師	片山正彦（大阪府枚方市立枚方宿鍵屋資料館学芸員）		
日 付	平成 28 年 10 月 23 日	場 所	就実大学 S 館 101 教室
対 象 者	一般、在学生、教職員	参加人数	約 70 名
概要	<p>例年どおり、今年度も大学祭の催しの一つとして、就実大学考古学クラブと就実大学史学会の共催で講演会を開催した。このたびは、上記の片山正彦氏をお招きして「大坂冬の陣と北河内 — 岡山ゆかりの武将と淀川をめぐる攻防」という表題でご講演をいただいた。</p> <p>片山正彦氏は、2007 年に第 5 回「徳川奨励賞」を受賞されている</p> <p>お話は、大坂冬の陣（慶長 19 年、1614 年）における北河内地域の戦いを、淀川とその堤防（主に、秀吉によって淀川左岸に築かれた「文禄堤」）をめぐる攻防、という視点から検討し、岡山ゆかりの武将の動向にも触れられた。</p> <p>結論は以下のとおり。(1)岡山ゆかりの武将の活躍を確認したが、両軍の戦いは、神崎川（淀川の支流）・中津川（現在の淀川）をめぐる攻防であり、川を渡るか否かの判断は戦況に影響する場合があった。また大阪城の東側は低地で、水が溜まりやすい土壌であり、鉄砲での戦となったのは足軽が動きづらいからかと推測される。(2)前項とも関連するが、徳川方はせき止めを行うことによって、川筋に舟橋を掛け自由に往来できるようにし、付城を築いてゆるゆると大阪城を攻めようとした。(3)枚方付近の淀川堤防を決壊されると、北河内だけでなく摂津までも水害が及び（ただし大阪城は浸水しない）、京都方面からの交通路が遮断される可能性があった。ゆえに徳川方は枚方付近に軍勢を置き、ここを守衛させる必要があった。</p> <p>せき止めを行い、付城を築いてゆるゆると大阪城を攻めるなどといった徳川方の戦略は、大坂冬の陣の和睦交渉における大阪城の堀の埋め立て問題につながっていく。</p> <p>日本史における人為的氾濫戦術は、攻撃に限って用いられるが、西洋たとえばオランダでは主に防衛のためである。その対比が興味深かった。</p>		
			

主 催	初等教育学会		
行 事 名	子どもの声に耳を澄ますと、子どものつもりが見えてくる — 子どもの心に添う保育 —		
講 師	柴田愛子（りんごの木子どもクラブ）		
日 付	平成28年12月10日	場 所	R601
対 象 者	初等教育学科学生、地域の方	参 加 人 数	約300名

概要

平成28年度公開教育講演会は、初等教育学科開設10周年を記念して、映画上映会と講演会の二本立てで開催した。

午前中は、映画「こどもこそミライ—まだ見ぬ保育の世界—」を上映した。柴田氏の、りんごの木子どもクラブを含む3つの保育現場の子どもや保育者の様子を記録した映画で、生き生きとした子どもたちの姿が、全国各地で大きな反響を呼んだ。今回、岡山大で初めて公開することが出来た。学生たちも、子どもたちの様子に笑ったり涙ぐんだりしながら、鑑賞していた。

講師の柴田氏も午前中から参加していただき、午前中の映画の内容を受ける形で講演をはじめられた。人間関係の作り方、自分の気持ちの納め方等々、様々なエピソードをとおして、子どもの持つ力の豊かさを生き生きと語られた。最後は、保育者・教育者を目指す学生に向けて、「全部の子どもを好きになる覚悟を持ってほしい」という言葉で締めくくられた。

「『すべての子を好きになる』という覚悟をもってという言葉がとても興味深かったです。今、子どもを100%にすることが良いわけではなくて、将来子どもが100%になれるか、幸せになれるかということが大切なんだと気づきました」

「人にはデコボコがあり、ずっとデコの部分に居続けるわけではない。苦手な部分を無理に触るとその部分は壊れる、という話を聞き、私の中の重りが軽くなったような気がして、涙が流れてしまいました。どうしても苦手なことはあってもいいのだと感じました。保育士や幼稚園教諭に分からないことがあっていい、子どもから得られることは何年たってもあるのだと思いました」

「協調性とは誰かが我慢して成り立つものではなく、互いに尊重して成り立つものなのだという事は今後忘れずにいたいと思いました」等、事後アンケートの記述からも、参加者の一人ひとりが、多くの気づきや励ましを得ることが出来た講演会だったことがうかがえた。

一般参加者も多数お見えになり、中には三重県からの参加者もおられた。



主	催	就実大学教育心理学会		
行	事	就実大学教育心理学会講演会		
講	師	岡山市立市民病院心療内科部長 岡部伸幸先生		
日	付	平成 28 年 10 月 29 日	場	所 S102 110 周年記念ホール
対	象	教育心理学科 1 年、2 年、 大学院修士他 希望者	参	加 人 数 102 名

概要

岡山市立市民病院心療内科部長の岡部伸幸先生を講師に迎え、「困っている人を支えるということ～精神科臨床の現場で」という演題で精神科医の仕事内容、様々な精神療法の紹介、実際の症例をもとにした病気の説明や患者さんへの対応についての講演をいただいた。

以下に参加学生の感想を引用するが、養護教諭をはじめとする対人援助職を目指す学生にとって、「支える」ということを考える良い機会となった。

学生の感想：「講演でわかったことは、精神療法には様々な工夫があるということだ。岡部先生が行う精神療法の場合は、いくつかの掟のようなものがあった。肯定も否定もしない、座敷童のように気づいたらそばにいる、決まった時間に決まった場所にいるなどだ。私は、精神療法とは精神科医が患者の病状をみて先に治療計画をたて、それ通りに遂行するものだと思っていた。しかし、実際は患者の気持ちを第一に考えることが大切にされていた。精神科医が誘導するのではなく、患者本人から言葉を発することや患者の意思を重視していたのである。精神科医は、患者を先導するのではなく後ろからついて支える存在だった。岡部先生の精神療法も、患者の気持ちを第一に考え、なおかつ患者がこころをひらいてくれるように様々な工夫をこらしていたのだ。患者の警戒心を解き、信頼関係をつくり、症状を改善していくために先生が心がけている精神療法についての話は興味深く、とても面白かった。

私は将来養護教諭になりたいと思っている。養護教諭は子どもの健康管理だけでなく、こころのケアをすることも重要だ。岡部先生の講義をきいて、生徒ひとりひとりの気持ちを考え、個人に合わせた対応ができる養護教諭になりたいと感じた。」



主 催	就実大学教育心理学会		
行 事 名	就実大学教育心理学会会員企画 「キチガイの一日」上映会・講演会		
講 師	こらーる岡山 山本明子 他2名		
日 付	平成29年1月25日	場 所	S513
対 象 者	就心会会員他 希望者	参 加 人 数	14名
概要	<p>精神科診療所「こらーる岡山」にて映画「キチガイの一日」を撮影された山本明子氏と統合失調症と共に生きる当事者の方をお招きし、精神疾患に対する理解を深めることを目的として、教育心理学科4年学生（会員）が企画したものである。以下、企画学生の報告を述べる。</p> <p>山本明子監督による映画「キチガイの一日」は、タイトルに差別的な表現を用いられているが、内容は温かみのある優しい作品である。その中でも統合失調症患者に対する社会的なイメージや当事者が語る障害についての考え方など、強いメッセージ性も持つ。実際に鑑賞した学生の感想の中には、自身が援助する側になった場合、どのような支援が必要になるのか考える機会になったとの記述が見られた。</p> <p>映画上映後には参加者から出された質問に山本明子氏が答えるという形の講演会、さらにその後は山本氏と統合失調症当事者の2人に対して、学生を3つのグループに分け、少人数による対話形式の場を設定した。企画者には少人数制の方が当事者の方に負担になりやすいとの考えがあったが、講演終了後に学生に感想を尋ねると、対話形式であったため、一方的な「講演」で終わるのではなく「会話」が出来てよかったとの意見が得られた。また、当事者の方お2人からも「何度か講演会をやっているが、今回のような少人数グループで行うのは初めてであり、新鮮であった」と企画者の意図を超えた収穫があった。</p>		
			

主 催	薬学部公開講座委員会		
行 事 名	平成 28 年度就実大学薬学部 第 1 回地域連携教育講座 「これからの薬剤師に求められるスキル1, 2」		
講 師	小茂田 昌代 先生 (東京理科大学薬学部医療安全学 教授)		
日 時	平成 28 年 6 月 12 日	場 所	本学 S102 講義室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	241 名

概要

本研修会では、東京理科大学薬学部医療安全学 教授の小茂田 昌代先生より、「これからの薬剤師に求められるスキル1, 2」として2部構成で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

第1部では、副作用マネジメントに関する講演であり、まず薬剤師向けに開発された副作用チェックアプリについて話された。病棟薬剤業務実施加算では、医薬品緊急安全性情報等を知ったときは速やかに担当医師に文書により情報提供することとなっていることもあるが、医薬品の最新情報を提供することにより、医師等からも信頼を得ることができる。副作用症状は患者が一番に分かることや、患者にしか分からないこともあるため、症状を聞き取る面談技術を身につけることが重要である。その上で聴取した症状をチームで共有することが、チーム医療の一員として重要である。また医師に副作用を伝える際のコミュニケーションの取り方についても言及され、「一度無視されても2回は伝える努力」が大事であり、また伝え方が大切であると強く述べられていたのが印象的であった。

後半は、アカデミック・ディテリングに関する講演であった。アカデミック・ディテリングとは商用的な情報ではなく、エビデンスに基づいた公正中立な医薬品情報を提供することを言う。現在日本の医師は、MRからの情報に頼っている現状があり、薬剤師から専門性を活かした情報提供が必要である。また現在大学院生が行っている乳がん外来での臨床研修について説明され、将来の薬剤師像について考えさせられる講演であった。

講演終了後の質疑応答では、熱心な聴講者からいくつも質問が寄せられ、現在臨床現場にいる薬剤師自身が、危機感と同時に将来への期待を持っていることがうかがえた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第2回就実大学薬学部地域連携教育講座 「画期的新薬を世界で一番早く服薬指導するかもしれない国」、「個人の継続的な努力が評価されるようになっていく国」の薬剤師の生涯研修について～日本薬剤師研修センターの取り組みと最近の話題から～		
講 師	佐藤 啓 先生 (日本薬剤師研修センター 常務理事)		
日 時	平成28年7月10日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	176名

概要

本研修会では、日本薬剤師研修センター常務理事の佐藤啓先生より、「「画期的新薬を世界で一番早く服薬指導するかもしれない国」、「個人の継続的な努力が評価されるようになっていく国」の薬剤師の生涯研修について～日本薬剤師研修センターの取り組みと最近の話題から～」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

約3時間の講演内容として、冒頭に日本薬剤師研修センターの事業について紹介されたのち、日本における新薬開発の国際化対応及び薬剤師業務の評価について詳細にお話になられた。

具体的には、研修センターが進めている生涯職能開発における研修認定薬剤師制度の位置づけや認定者数・研修参加者数の年度推移、さらには認定実務実習指導薬剤師制度・各種専門薬剤師認定制度に関して詳細を述べられた。薬局薬剤師や病院薬剤師のみならず、学生にも非常に興味深い内容で参加者が熱心に聞き入っていた。続いて、日米欧における新薬の審査期間の違いや国際共同臨床試験・データの有効性に関する視点など、新薬開発の国際化対応から臨床試験データの信頼性及び新薬安全性評価方法の適切性に関して講演された。現在の日本の新薬開発から販売に至るまでの過程がとても簡潔にまとめられており、よくわかるお話であった。

さらに、薬剤師としての職能が評価される診療報酬に関する話、かかりつけ薬剤師指導料の算定条件と患者さんへの同意取得方法など、現場の薬剤師がすぐに役に立てることができる情報に関する講演内容でお話しされた。最後に、時間が押し気味ではあったが、適応外使用やスイッチOTC、電子処方せんの運用など、細菌のトピックスに関するお話があり、講演は終了した。

全体を通して、現場の薬剤師が非常に興味のある分野の内容であったため、講演終了後の質疑応答でも参加者から積極的な質疑があり、薬剤師の関心の高さがうかがえた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第3回就実大学薬学部地域連携教育講座 「薬の顔を見てみよう～構造から見える薬の特徴～」		
講 師	杉原多公通 先生 (新潟薬科大学教授)		
日 時	平成28年9月25日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	107名

概要

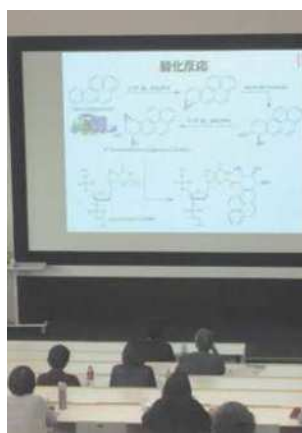
本研修会では、新潟薬科大学教授の杉原多公通先生より、「薬の顔を見てみよう～構造から見える薬の特徴～」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

“くすり”の英語表記「medicine」という言葉が、薬種商としてミョウバンを販売し営んでいたイタリアのメディチ家が由来となっている説や、ヨーロッパでは薬剤師は「chemist」と呼ばれ化学の専門家として世間に認知されているなど、化学者としての薬剤師の役割を象徴するお話から講演が始まった。

約3時間の講演内容として、医薬品の分子構造に含まれる限られた原子(窒素N、酸素O、フッ素F)によって薬の作用の仕方が変化し、また、医薬品が特定の構造を含んでいると副作用を引き起こしやすい等、医薬品の化学構造を見ることで、薬剤師の日常業務に活かせるようなお話がなされた。

具体的には、NやOに着目することで医薬品の作用強度がわかること、Oを含むエーテルやエステル構造を持つことで作用時間が延長して医薬品の使用回数を制御できること、分解されにくい薬物は、生体膜に留まりときに危険ドラッグのフラッシュバックを引き起こしうること、また、そのまま環境中に排泄されて医薬品の耐性化や環境汚染を引き起こすこと、アミノ酸であるプロリン構造を含む医薬品は血圧変動や炎症を惹起する可能性があること、薬の構造自体がアレルギー反応の元になるなど様々な観点で、薬の構造と作用に関するお話があった。

講演終了後に現場薬剤師からの具体的な質問があり、街の化学者としての薬剤師の意識を刺激する貴重な講演となった。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第4回就実大学薬学部地域連携教育講座 「臨床症状と医療面接からの臨床推論」 第1部「高齢者の診療の仕方 生活習慣病を含めて」 第2部「薬剤師に必要な臨床推論」		
講 師	橋本 正良 先生 (埼玉医科大学病院高齢者総合診療内科 教授)		
日 時	平成28年10月23日	場 所	本学P201教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	92名

概要

本研修会では、埼玉医科大学病院高齢者総合診療内科教授の橋本正良先生より、「臨床症状と医療面接からの臨床推論」という題目で、「高齢者の診療の仕方 生活習慣病を含めて」、「薬剤師に必要な臨床推論」の2部構成で、9:30から12:30まで講演が行われた。

近年、しばしば耳にする「総合医」、「総合診療医」について、医師の立場から、それらの役割について説明いただき、さらに、後半では、先生が経験された具体的な症例をもとに、臨床推論や診断の仕方・考え方、さらに医療面接の重要性について、非常にわかりやすく講演していただいた。

今回の講演では、薬局薬剤師や病院薬剤師だけでなく、大学でコミュニケーション演習を実際に行っている学生も多数参加しており、実臨床での医療面接について非常に興味深い内容に熱心に耳を傾けていた。また、病院や薬局勤務の薬剤師の方にとっては、実際の病棟業務や薬局での服薬指導において、臨床推論をどのように患者さんのケアに結びつけていくかが大きな課題であり、講演後の質疑応答では、そうした具体的な質問が多くなされた。さらに、大学の臨床系教員にとっても、より高度な薬学教育を進めていくために、どのようなことを学生に伝え、そして実務実習に繋げていくべきかを考える上で多くヒントをいただくことができ、非常に収穫の多い講演であった。

今回の公開講座は、S102ではなくP201で行われたため、部屋の都合上、席数にも限りがあったが、スタッフの対応もスムーズに行われ、問題なく遂行することができた。



主 催	薬学部公開講座委員会		
行 事 名	平成 28 年度就実大学薬学部 第 5 回地域連携教育講座 「在宅で出来るフィジカルアセスメント&バイタルチェック」		
講 師	國永 直樹 先生（倉敷中央病院救急センター）		
日 時	平成 28 年 11 月 27 日	場 所	本学 S102 講義室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	205 名

概要

本研修会では、倉敷中央病院救急センターの國永 直樹先生より、「在宅で出来るフィジカルアセスメント&バイタルチェック」として、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

前半の講演では冒頭で、薬剤師は医薬品の適正使用と医療安全の確保を図ることが求められており、これを実現するために必要な情報であるバイタルチェックやフィジカルアセスメントを行い、他の医療者と共有する必要があることが示された。その後、バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸、体温、意識）についてチェックする方法や注意点について具体例や実技を交えて解説がなされた。前半終了後の質疑では、バイタルチェックを行った際の医師への伝達方法や、検査値と患者状態の相関についての質問が挙がり、解説が行われた。

後半の講演では、前半に引き続き具体的な薬剤例や症例を挙げてバイタルチェックの重要性が示された。免疫抑制剤、抗甲状腺薬、吸入 β_2 刺激薬等の薬剤や起立性低血圧等について、前半で解説されたバイタルサインを確認することで患者状態を把握し、医薬品の適正治療につなげる方策が具体的に提示された。「医師よりも患者と接する時間の長い薬剤師等のコメディカルの方が副作用の発現に気がつく可能性が高いので、医師へと情報共有して欲しい」との期待が示され、印象的であった。また、フィジカルアセスメントの例として貧血や黄疸の評価方法等が解説された。後半終了後の質疑では、聴講者から「明日からの業務に即座に活かすことができる内容であった」との感想があった。また、爪を用いた評価方法や、起立性低血圧の評価方法についての質問が挙がり、解説が行われた。さらに、学生からの質問に対しては医師への情報共有による薬剤師の職能の発揮に対する期待を示していただき、今後の学習や業務を行っていく上でのモチベーションとなったと思われる。



主 催	経営学部		
行 事 名	就実グローバルフォーラム 2016 第1弾 「グローバル化時代の企業経営と人材育成」		
講 師	ビル・エモット氏、中島 基善氏、恩藏直人氏		
日 付	平成28年4月16日(土)	場 所	就実大学 s102 教室
対 象 者	学生、社会人	参 加 人 数	200名

概要

近年のグローバル化の進展が世界経済に大きな変化を引き起こす一方、企業経営や地域経済にも多大な影響を与えているなかで、2014年4月の経営学部設立以来、内外の著名なスピーカーをゲストに迎えて、グローバル化、企業経営、大学教育などをテーマとしたグローバル・フォーラムを開催してきたが、第5回目となる今回は「グローバル化時代の企業経営と人材育成」をテーマに、本学客員教授のビル・エモット氏に加え、早稲田大学理事・教授の恩藏直人先生、岡山県内企業からナカシマプロペラのの中島基善社長を迎えて開催した。

ビル・エモット氏は近年、グローバル化は中ロに代表されるような国際行動の基本ルールの変動や金融危機の頻発、富の不平等の拡大等を伴う新たな局面に至っている。企業が新たなグローバルイノベーションに対応するには、世界から有能かつ多様な人材を登用すること、高齢者を積極的に活用する必要があると述べられた。

中島基善社長は、ベトナムやフィリピンなど自社の積極的な海外展開について紹介されたあと、そうした展開を支えるグローバル人材とは「国籍を問わずに信頼関係を構築できる人材」であり、そうした人材やリーダーを育てていくことが必要と指摘された。

恩藏直人先生は、近年の日本企業における国際競争力の低下は、知識偏重の教育とグローバルマインドの低下によるところが大きく、今後はデザインと結びついた価値創造が重要であると強調された。

杉山副学長をコーディネーターとした締めくくりのパネルディスカッション「グローバル化する地域経済と大学の役割」では、大学における英語教育やIT教育、インバウンド観光などを活用した地域文化の発信などについて活発に議論が交わされた。

参加者数は学生、社会人を含めて約150名で、当日の様子は山陽新聞朝刊等で紹介された。



主 催	経営学部		
行 事 名	グローバルフォーラム 2016 第2弾 「英国のEU 離脱と世界経済のゆくえ」		
講 師	デイビッド・ウォレン元駐日英国大使、福地慶太日本銀行岡山支店長		
日 付	平成28年10月10日	場 所	就実大学 s102 教室
対 象 者	学生、社会人	参 加 人 数	150名

概要

2016年10月10日(月・祝) 15:00~17:00 に本学 110 周年記念ホール (S102) において開催。本年6月に英国で欧州連合(EU)からの離脱の是非を問う国民投票が実施され、離脱“BREXIT”が決定した。このことが英国やEUのみならず世界経済にどのような影響を与えるのかが注目されている中、2008年から2012年まで駐日英国大使を務められたデイビッド・ウォレン卿の来日の機会を捉えて、同氏を招き、岡山EU協会(事務局岡山経済同友会内)との共催で本フォーラムを実施した。学生や同協会のメンバーら約150人が熱心に聴講した。

第1部基調講演でウォレン卿は「EU残留支持派は経済面で不利になる懸念を訴えたが、現在の政治に失望している層には説得力がなかった」とBREXITを決めた国民投票の背景を解説した。今後については移民流入制限と欧州単一市場へのアクセス維持のどちらを重視するか、判断が迫られ、「どちらを選ぶかで英国の将来が大きく異なってくる」との見方を示した。

第2部鼎談は同卿および日銀岡山支店の福地慶太支店長、杉山慎策副学長で行われ、BREXITの背景や世界経済への影響について意見が交わされた。

当日の様子はNHKのニュースや山陽新聞朝刊などでも紹介された。

朝刊・2016年10月12日(木)

EU 離脱の背景解説

前英大使招きフォーラム

就実大など

前駐日英大使のウォレン氏(右から2人目)を招いた就実大と岡山EU協会のフォーラム

山陽新聞朝刊

長、日銀岡山支店の福地慶太支店長と意見交換。福地支店長は「国民投票が政治への不満のほけ口として使われるのでは」と指摘し、杉山副学長は「英国がEUの一員として活動する方が、地域の安定につながる」と話した。

「どちらを選ぶかで英国の将来が大きく異なる」との見方を示した。就実大の杉山副学長ら約150人が聴いた。(田中泰)





主 催	経営学部		
行 事 名	就実グローバルフォーラム 2016 第3弾 「岡山の地域創生～アート・芸術文化のまちづくり」		
講 師	ゲーザ・フォン・ハプスブルク大公、大森 雅夫氏（岡山市長）、石川 康晴氏（株式会社ストライプインターナショナル取締役社長）		
日 付	平成 28 年 10 月 15 日	場 所	就実大学 s102 教室
対 象 者	学生、社会人	参 加 人 数	143 名

概要

2016年10月15日（土）13:00～17:00に本学110周年記念ホール（S102）において開催。同時期に、岡山市内で開催されている「岡山芸術交流2016」のタイミングを捉え、アートを通じた岡山の地域創生についてのフォーラムを開催した。

ヨーロッパにおける芸術に造詣が深く、現在、メトロポリタン美術館講師を務めておられ本学客員教授・ゲーザ・フォン・ハプスブルク大公にヨーロッパのケースについて歴史的な視点からお話いただくとともに、「岡山芸術交流2016」の会長である大森雅夫岡山市長から「岡山の歴史文化と現代アート」と題したご講演、そして同事業の総合プロデューサーをされている石川康晴株式会社ストライプインターナショナル社長からは「OKAYAMA ブランディング～芸術交流を中心に～」と題して、地域おこしと芸術振興への企業としての取り組みについて、自社の事例を中心にご講演を頂いた。

締めくくりに杉山慎策副学長を交えた座談会を行い、アートを通じた岡山の地域創生について活発な議論が展開された。

社会人と学生合わせて143名が熱心に聴講され、終了後のアンケートでも極めて好評であった。



講演される大森雅夫岡山市長

主 催	幼児教育学科		
行 事 名	就実やんちゃキッズ（地域子育て支援の取り組み）		
講 師	幼児教育学科1・2年生（GBA 中四国保育学生研究大会参加メンバー）		
日 付	平成28年5月～平成29年1月	場 所	本学体育館アリーナ
対 象 者	就学前の子どもと保護者	参 加 人 数	1425名(子ども646名 保護者779名)

概要

幼児教育学科では、学生ボランティアグループ GBA と、中四国保育学生研究大会参加学生による地域子育て支援活動『就実やんちゃキッズ』を開催している。10周年を迎えた平成28年度は、『からだをうごかさう 1・2・3!』をテーマとし活動を行った。

定期的を開催することで地域の子育て支援体制を構築し、地域の子育て世帯が子どもといっしょに安心して過ごすことのできる場を提供している。学生たちにとっては、他者との協働を学ぶ場であり、授業での学修を試す場であり、保育・幼児教育に関する専門的な知識や技術、コミュニケーション能力、社会貢献への意欲などを磨く機会となっている。

「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の実施概要（平成28年5月～29年1月）

本学体育館アリーナを会場とし、5月21日、6月25日、11月26日、1月21日の計4回開催した。開場が9時30分、開演は10時で11時30分までの90分間である。プログラムの前半部では、学生が地域の就学前の子どもを対象に公演を行った。学生たちは「表現」等の授業で学んだことを活かしながら、パネルシアター・リズム体操・オペレッタを披露し、幕間には手遊びを行った。後半部では子どもたちや保護者と遊びを主とした交流を行う。お絵かきコーナーや、新聞シャワーコーナー、ダンボールハウスコーナー、伝承遊びコーナー、身長・体重測定コーナーなど、幅広い子育て世帯が楽しめるよう多くのコーナーを設置した。

昨年と同様に、授乳室、おむつ替えスペースなども充実させ、来場者が快適に過ごすように配慮している。毎回300名前後の来場者が訪れ、和やかな交流の場を持つことができた。



主催 (学科・研究所等)	幼児教育学科		
行 事 名	潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会		
講 師 ・ 招 聘 団 体	幼児教育学科全教員		
日 時	平成 28 年 8 月 20 日～ 平成 28 年 9 月 17 日	場 所	本学・就実こども園
対 象 者	岡山県内在住潜在保育士 及び現職保育者	参 加 人 数	延べ 57 名

概要 (本文・写真・図等)

幼児教育学科では、平成 26 年に潜在保育士の復職支援プロジェクトを立ち上げて 3 年目になります。今年は潜在保育士だけではなく、現職保育者を対象とした卒後リカレント教育の場を兼ねて研修を実施しました。今年は公益法人福武教育文化振興財団の助成を受けました。

以下の日程で、岡山県下の潜在保育士及び現職保育者を対象に、5 講座の研修と情報交換会を実施しました。

情報交換会には、岡山市の担当者を招き、復職支援の取り組みに加え、求人情報や勤務内容等、具体的に伺いました。また、昨年の受講生の中から復職に成功された方を招き、研修を受けるきっかけや研修後の心境の変化、就職までの経緯を報告していただきました。受講生から再就職にあたっての心配事や疑問についての質問に対して、解決に向けてのアドバイスをいただきました。

続いて、就実こども園において保育士の日常業務を体験しました。この実地研修では、保育の環境における基本を学ぶと同時に、クラス担任から直接個別の対応についての解説も窺いました。

受講の感想としては、以下のような意見が寄せられました。

5 年ほどブランクがあるので、保育について認識を深められ非常にありがたい。経験がなく、なかなか一歩を踏み出せないでいたが、ボランティアで少しでも経験してみたいと思った。日頃、日常業務に追われているので、この機会に立ち止まって見つめ直すことができよかった。

日 程	内容 (午前 10 時～12 時)	講師	内容 (午後 13 時～15 時)	講師
8 月 20 日	①保育原理	澤津	②幼児体育	松本
8 月 27 日	③特別支援	鎌田	④器楽	秋山
9 月 3 日	⑤障がい児保育	田中	情報交換会	
9 月 7・17 日	就実こども園での体験実習 (9 : 00～16 : 00)			



<研修風景> ①器楽



②情報交換会



③就実こども園での体験実習

主 催	就実短期大学 生活実践科学科		
行 事 名	生活科学講演会		
講 師	川上陽子氏 (Y' オフィス代表)		
日 付	平成 28 年 11 月 9 日	場 所	本学 S 館 101 教室
対 象 者	学生、一般	参 加 人 数	100 名

概要

11月9日(水)16:30~18:00、本学S館101教室で「生活科学講演会」が、生活実践科学科の学生及び一般を対象として開催されました。

川上陽子先生(Y' オフィス代表)による「社会人に役立つ感情コントロール法 アンガーマネジメント～仕事も人生も成功させるために～」は、自分自身の感情の中でも特に、「怒り」の感情をコントロールし、社会人として人間関係を豊かにするための方法について学ぶ内容です。「怒り」の感情について知り、コントロールするための3つの方法について分かりやすく説明されました。

川上先生は、会場に問いかけ、周囲と回答をシェアしあうワークを交えて講演され、学生にとって有意義かつ楽しい学びの機会となりました。講演後、学生の代表者より感謝の言葉と花束が贈られました。

学生からは、「先生から教えて頂いた対処法をこれからイライラしてしまった時にやってみたい



と思いました」「今まで感情をコントロールすることについて意識したことがなかったので、これからはすごく役立つ話でした」「社会に出た時、良い人間関係を築いていくためにもこのことを生かしていこうと思いました」「今日の講演で学んだことを意識すること、トレーニングすることで、今よりも周りの人とよりよい関係を作れるようにしたいです」といった感想が寄せられました。

主 催	就実教育実践研究センター		
タ イ ト ル	親子ふれあいタイム		
実 施 者	就実子育てアカデミー		
日 付	平成 28 年 5 月～平成 29 年 3 月 (週 2 回 火・木)	場 所	就実こども園 2F 子育て支援室
対 象 者	0～5 歳までの親子	参 加 人 数	のべ合計 約 1800 名
概要 (本文・写真・図等)			
<p>1. 事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心理発達上、大きな役割を果たす異年齢児(0～5 歳児)の交流の「場」の構築 ・他の親子の姿を見ることによる自らの子育てスタイルの確立 ・親の子育て不安を相談できる「場」と大学・短期大学・関係協力機関などの人的資源の活用 <p>2. 事業内容</p> <p>0 歳から 5 歳までの乳幼児を持つ親子を定期的に受け入れ、就実こども園 2 階の子育て支援室で行ってきた。火曜日はサークル活動をととして 20 組の親子 (3 クラス) を決め、年間で計画した活動を楽しんだ。木曜日は親子でプログラムのない自由な形で過ごしてきた。また子育て講座を設け身近な知りたい内容の講座を開催した。火曜日と木曜日は園庭開放し、いつでも園庭で遊んで過ごせる。本事業を通して、異年齢児との交流を行う場、親同士の交流の場、親の子育て不安を相談できる場、親の学び場等を構築することができた。</p> <p>3. 活動成果等</p> <p>就実教育実践研究センターが地域の NPO、学校、保育所、町内会、企業、行政と協働して運営している「就実子育てアカデミー」の事業の一環として、本年度も親子ふれあいタイム事業を継続してきた。情報は広く知れ渡り、岡山市はもとより市外からの参加者もあるので、安心・安全の観点から予約制を導入している。</p> <p>就実こども園の施設を利用し、ゆったりと遊べる空間で、親と子どもがふれあう時間を提供できることは、他の親子と知り合う場となり、子育てについて意見交換したり友達を見つけたり親の願いにもかなうものとなり子育てを楽しむ輪が広がると考える。本学教員の指導の下、本学の学生たちも、子どもとその保護者にかかわる機会に恵まれ、直接体験を通して子ども理解を深めている。</p> <p>親子ふれあいタイム最大の特徴は、親の学び講座である。親子が集うことにより、他の親子の子育てスタイルを学ぶことに加え、希望者を対象に、各種の子育て講座を提供した。大学教員、就実こども園スタッフ、外部スタッフなどが講師となり、「ベビーマッサージ」「0 歳のつどい」「離乳食について」「わらべうた・絵本・あそび」「歯磨き指導」等の講座を継続的に開催した。子育て講座を受講する参観者はとても熱心であり、講座後も質問等で話が盛り上がることも多く、参加者同士のネットワークも構築されているものと考えている。</p> <p>その他、親子ふれあいタイムに関しては、専任保育スタッフを配置したり、スタッフが当日の参加者の様子、相談内容等を相互に報告する振り返りを充実させることにより、支援事業の質を高めていくことに配慮してきた。</p>			

主 催	就実教育実践研究センター（研修事業部門）		
行 事 名	平成 28 年度就実教育実践セミナー「発達障害と共に生きる～本人からのメッセージ～」		
講 師	瑠璃 真依子		
日 付	平成 28 年 10 月 26 日	場 所	本学 S101、S102 教室
対 象 者	学生、教職員、一般	参 加 人 数	287 名

概要

平成 28 年 10 月 26 日（水）IV限に、平成 28 年度就実教育実践セミナー講演会「発達障害と共に生きる～本人からのメッセージ～」が開催されました。今回は収容定員の都合上、S102 教室で行われる講演を同時ライブ中継で S101 教室に映すという試みがなされました。

講師にお招きした瑠璃真依子先生は、ご自身が広汎性発達障害の当事者であり、現在自宅で学習塾を経営するかたわら講演活動も積極的に行われ、「どろだんご 発達障害と共に生きる」の著者でもあります。

冒頭、「私が障害者だからと言って緊張せず、話を聞いてどうぞ素直に反応して下さいね。」と前置きされ、幼少期から現在までの「自分史」について、写真を交えながら親しみやすく語って下さいました。会場は瑠璃先生のお人柄に緊張が解け、リラックスした様子で笑いや感嘆に包まれる場面もありました。

第 2 部では、「私の取扱説明書」と題し、生きづらさを抱えながらも懸命に歩んでこられた人生経験をもとに、発達障害への理解や対応について説明されました。保育者や教育者を目指す学生たちにとって、実習や就職先で参考になるような内容であり、皆真剣に耳を傾けメモを取る姿も見られました。

最後に、「光り輝け！！どろだんご達」として、現在取り組まれている活動や社会への要望などを語られ講演を締めくくられました。瑠璃先生の熱心なご講演に対し、学生代表として幼児教育学科 2 年の豊田想さんから、「来年社会人として第一歩を踏み出します。今日のお話をしっかりと胸に刻み込み、様々なハンデを抱える方たちに対して少しでも役に立ちたいと思います。」と感謝の言葉が述べられ花束が贈呈されました。

講演終了後には、多くの学生が瑠璃先生のもとに集まり質問を投げかけ、瑠璃先生は、その一人ひとりに対し丁寧に応じられていました。



主 催	就実大学・就実短期大学 図書館		
行 事 名	第7回図書館セミナー「岡山城-天守・櫓・石垣から見える名城の真価-」		
講 師	広島大学大学院教授 三浦正幸		
日 付	平成 29 年 10 月 29 日	場 所	本学図書館5階 AV ホール
対 象 者	一般	参 加 人 数	96 名
概要	<p>10月29日(土)の13時から、図書館 AV ホールにて、「岡山城-天守・櫓・石垣から見える名城の真価-」と題して、広島大学大学院教授 三浦正幸氏による第7回就実大学・就実短期大学図書館セミナーを開催しました。今年、「城のつくり方図典」(小学館)でお馴染みの、著名な日本の建築学者でもある三浦先生とあって、96名の参加者で大盛況でした。講演中は、終始笑いに溢れ、とても面白く充実したセミナーでした。</p>  <p>三浦先生は、「天守・櫓・石垣」の点から岡山城を見た場合、如何に「岡山城」が洗練された格調の高いお城であるかを、面白可笑しくお話されました。一般に「岡山城」の築城者は、宇喜多秀家によるものと云われています。しかしながら、確かに豊臣期の城郭を完成させた者は、宇喜多秀家ですが、その後の小早川秀秋による城域の拡大、池田家による外堀の整備、石垣・月見櫓の格調の高さなど、小早川秀秋や池田家の功績も大いに見逃せません。</p> <p>宇喜多秀家が築城した天守閣については、五重六階の古式な望楼型天守閣で、豊臣期の大坂城を模倣でき、金の鯨を許されていることなど、ただの田舎大名でなく、秀吉の寵愛ぶりが窺え、とても興味深いお話です。</p> <p>また、石垣においては、宇喜多家の時代の加工されていない自然石を積んだ勾配の緩い石垣から、池田家の時代の加工形成された算木積の石垣作りの変遷は、時代の経過を見ることができるとや池田忠雄が建てた国指定重要文化財の月見櫓では、城の外側から見える二層望楼型と内側から見える三層の層塔型の和戦両様造になっていることです。これは、外側からの装いは、軍備を凝らしたものの、内側は、優美な居住性の高いもので、両側面が、格調の高い櫓と見て取れる点です。本来の櫓の意味から考えても、贅沢で櫓らしくない御殿建築と云え、興味深い点です。</p> <p>三浦先生のお話は、とても分かり易く、岡山空襲による天守(昭和41年再建)・多数の櫓など焼失さえなければ、日本の名城の一つとして、「岡山城」は広められたのではないかと、岡山県人としての誇りをくすぐられた、心地の良い雰囲気を保った講演でした。</p> <p>また、第7回の図書館セミナーは、学生とともに、初めて、「岡山城」のフィールドワークを実施しました。このことにより、事前学習をしっかりと行い、史料に触れ、史料に基づいて、実際に遺構を調査することにより、身近に感じる素晴らしさを、身を持って体験できたセミナーでした。</p> <p>地域の方々がりピーターとして、年々増加し、本学の学生も図書館サポーターとしての参加により、図書館が、地域の方々と学生を結びつけるセミナーができるよう、セミナーを企画したいと思います。</p>		

出 前 授 業

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	絵巻物を見る、きく、ふれる ―日本のアニメーションの原点―		
講 師	川崎 剛志		
日 付	平成28年7月20日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	高校1年生	参加人数	19名
(概 要)			
なぜ、絵巻物は日本のアニメーションの原点とよばれるのか。平安時代末期に制作された『信貴山縁起絵巻』の複製を開きながら、静止画像を動かす書物のしかけと脳のしくみを探究しました。			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	絵巻物を見る、きく、ふれる ―日本のアニメーションの原点―		
講 師	川崎 剛志		
日 付	平成28年10月4日	場 所	倉敷南高等学校
対 象 者	高校1・2年生	参加人数	54名
(概 要)			
なぜ、絵巻物は日本のアニメーションの原点とよばれるのか。平安時代末期に制作された『信貴山縁起絵巻』の複製を開きながら、静止画像を動かす書物のしかけと脳のしくみを探究しました。			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	「身体で伝える」		
講 師	岡本 悦子		
日 付	平成28年6月10日	場 所	兵庫県立神戸高校体育館
対 象 者	兵庫県立神戸高校	参加人数	2年生28名
(概 要)			
「伝える力」に必要なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を目的として、身体表現を通じたワークに取り組んで頂きました。体育祭でダンスリーダーを務める皆さんは意欲的で飲み込みも早く、他者を引き込み、また魅力的に働きかける力量を発揮なさっていました。			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	通訳・翻訳の世界へようこそ		
講 師	武部 好子		
日 付	平成28年11月22日	場 所	愛媛県立三島高等学校
対 象 者	高校2年生	参加人数	18名
(概 要)			
110分間の授業の前半は実際のニュースを英語で視聴しながら声を出して日本語への通訳に挑戦して頂いた。後半は英語の絵本を全員で音読し、ペアになって日本語の擬音語を意識しながら翻訳作業を行った。生徒達の反応はよく、クラスの最後には生き生きと発表して下さった。			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 総合歴史学科		
タ イ ト ル	歴史学入門		
講 師	吉本 勇		
日 付	平成28年12月2日	場 所	香川県立高松北高等学校
対 象 者	高校1年生	参加人数	15名 (50分×2)
(概 要)			
大学で学ぶ歴史学関連科目の内容説明(ミニ講義を含む)。歴史学科カリキュラムの説明と地域や街の中の歴史遺産の発掘、活用方法の解説および最近流行の古地図や地形図を利用した街歩きの事例や楽しみ方についての解説など。			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	国語の授業をつくってみよう		
講 師	丹生 裕一		
日 付	平成28年7月19日	場 所	岡山県立林野高等学校
対 象 者	1・2年生	参加人数	18名
(概 要)			
小学校第2学年の国語の教科書教材「スイミー」を取り扱って、読む力を育てる言語活動を実演して見せた後、続く場面を対象にして子どもたちが意欲的に取り組むような言語活動のアイデアを図解入りで書き、OHCを用いて交流する体験をさせた。			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	国語の授業をつくってみよう		
講 師	丹生 裕一		
日 付	平成28年12月16日	場 所	岡山県立玉野光南高等学校
対 象 者	1・2年生	参加人数	8名
(概 要)			
<p>小学校第2学年の国語の教科書教材「スイミー」を取り扱って、読む力を育てる言語活動を実演して見せた後、続く場面を対象にして子どもたちが意欲的に取り組むような言語活動のアイデアを図解入りで書き、OHCを用いて交流する体験をさせた。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	理科好きな子どもを育てるためには ―予想を立てて考えよう―		
講 師	福井 広和		
日 付	平成28年9月7日	場 所	広島県立尾道東高等学校
対 象 者	全学年	参加人数	31名
(概 要)			
<p>前半は就実大学・教育学部・初等教育学科の紹介、保育士・幼稚園・小学校教諭の資格と仕事、採用試験についての説明を行った。後半は理科教育を例にとり、子どもを教えることの難しさと面白さ、どうすれば理科好きな子供を育てることができるかについて演習形式で紹介した。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	理科好きな子どもを育てるためには ―見れども見えず―		
講 師	福井 広和		
日 付	平成28年11月18日	場 所	香川県立高松北高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	48名
(概 要)			
<p>各回 50 分間の授業を 24 名ずつ 2 回行った。前半は就実大学・教育学部・初等教育学科の紹介、保育士・幼稚園・小学校教諭の資格と仕事、採用試験についての説明を行った。後半は理科教育を例にとり、人は物事を見ているようで見ていないことを例示し、どうすれば見るようになるか考えた。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	理科好きな子どもを育てるためには ―理科教育の目的とやりがい―		
講 師	福井 広和		
日 付	平成28年12月17日	場 所	岡山県立玉野光南高等学校
対 象 者	1年生	参加人数	29名
(概 要)			
土曜活用授業として、大学の学部・学科に対する意識を高めるためのガイダンス授業を行った。前半は就実大学・教育学部・初等教育学科の紹介、保育士・幼稚園・小学校教諭の資格と仕事、採用試験についての説明を行った。後半は理科教育の目的とやりがいについて講演した。			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	わくわくヴァイオリン体験		
講 師	安久津 太一		
日 付	平成28年10月13日	場 所	岡山市立岡山後楽館高等学校
対 象 者	1年生	参加人数	12名
(概 要)			
リコーダーやギター、ヴァイオリンをはじめとする多様な楽器を用いたアンサンブルの授業を実践した。教員志望の高校生は積極的に音楽活動に参加しており、和やかな雰囲気の中、大学の授業や卒業後の進路、入試に関する質問も多く見られた。			

所 属 (学部・学科)	教育学部 教育心理学科		
タ イ ト ル	性教育講演会 ―いのちの授業―		
講 師	郷木 義子		
日 付	平成28年11月30日	場 所	並木学院福山高等学校
対 象 者	生徒30名	参加人数	生徒28名、教職員9名
(概 要)			
性教育の中でも基本的に最も大切な「いのちの授業」を行った。それを基に高校生であることから性感染症の問題にも触れた。簡単な実験に生徒も参加しながら性の問題を一緒に考え、これからどのような行動をとることが望ましいのか講義を行った。			

所 属 (学部・学科)	薬学部・薬学科		
タ イ ト ル	「知ってほしい！薬物乱用の怖さ」		
講 師	小野 浩重		
日 付	平成28年5月21日	場 所	吉備高原学園高校
対 象 者	高校2年生	参加人数	120名
(概 要)			
薬物乱用の弊害、精神的・身体的依存、脳内報酬系と依存性薬物の作用部位のほか、昨今話題になっている危険ドラッグの代表的な有害成分や化学構造、健康被害・症状等について触れ、最後に「薬物乱用がもたらす悲惨な結末、薬物のない学生生活のために」で講義を締めくくった。			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	お金の役割と経済のしくみ		
講 師	大崎 泰正		
日 付	平成28年7月20日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	約40名
(概 要)			
市場とお金の働きが人々の分業を成立させ、社会を豊かにする。市場の機能を、芦田川下流・草戸千軒町の歴史や現在の福山地方卸売市場の事例により説明。お金は社会への貢献のあかしであり、社会からの恩恵の引換証である。自分の比較優位なことを見つけることが重要。			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	お金の役割と経済のしくみ		
講 師	大崎 泰正		
日 付	平成28年11月10日	場 所	兵庫県立赤穂高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	約30名
(概 要)			
市場とお金の働きが人々の分業を成立させ、社会を豊かにする。市場は万能ではないが、それに代わるものはない。人々の先行き見通しが好転し「借金」が増えると、お金の量が増える。しかし人々の期待に働きかけることは容易ではない。またお金が増えすぎてもバブルや格差を生む。			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	観光学入門		
講 師	八巻 恵子		
日 付	平成28年10月20日	場 所	島根県立津和野高等学校
対 象 者	1・2年生	参加人数	39名
(概 要) 大学で学ぶ観光学の概要を説明し、日本の旅と観光について、歴史、社会、政策、国際交流、異文化理解の観点から概観した。とりわけ経営学領域からは、地域を売るためのプロモーション戦略、観光産業の企業経営やサービスについて学ぶことができることを説明した。			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	地域の魅力を伝える 地域とマーケティング		
講 師	加賀美 太記		
日 付	平成28年10月21日	場 所	岡山市立岡山後楽館高等学校
対 象 者	3年生	参加人数	30名
(概 要) 地域とマーケティングとテーマのもと、ゆるキャラやB-1グランプリといった具体例を紹介するとともに、なぜ地域に注目が集まるのか、そこで求められる取り組みについて経営学や社会学の視点から解説をおこなった。			

所 属 (学部・学科)	短期大学 生活実践科学科		
タ イ ト ル	身近な食品の色とはたらき		
講 師	岡本 己恵子		
日 付	平成28年10月21日	場 所	岡山市立岡山後楽館高等学校
対 象 者	3年生	参加人数	52名
(概 要) 食品には赤、黄、白、黒、緑など様々な色があるが、それらは私たちの目を楽しませてくれるだけでなく、鮮度を知る目安にもなる。また、近年は食品の色素の生理的効果が明らかにされている。こうした話題も紹介しながら、食事の色のバランスと栄養について話した。			

所 属 (学部・学科)	短期大学 生活実践科学科		
タ イ ト ル	「正多面体の世界」		
講 師	原田 龍宜		
日 付	平成28年12月17日	場 所	岡山県立玉野光南高等学校
対 象 者	高校1年生	参加人数	11名
(概 要)			
10:00～11:30の90分間、当該高校にて上記表題で出前授業を行った。他科目と同時に希望者のみということで少人数ではあったが、玩具を用いて現代の数学の話まで出来た。概ね生徒達は楽しそうに聞いてくれて授業しやすかった。			

所 属 (学部・学科)	短期大学 生活実践科学科		
タ イ ト ル	文学探究 文学碑で探る岡山ゆかりの文学者—与謝野寛（鉄幹）・晶子 岡山の旅を例に		
講 師	加藤 美奈子		
日 付	平成28年9月2日	場 所	岡山県立岡山城東高等学校
対 象 者	3年生	参加人数	44名
(概 要)			
同校三年生の「文学探究」講座の一環として、郷土ゆかりの文学者を知るきっかけとなる内容を提供したいと考え、与謝野寛（鉄幹）・晶子の岡山への旅を例に文学碑を調査のポイントとして紹介した。夫妻の訪問地・旅詠を岡山県全図とともに確認しながら、郷土資料の活用例を示した。			

学外組織との連携・協働

主 催	倉敷考古館、就実大学人文科学部		
タ イ ト ル	倉敷考古館と就実大学人文科学部との連携協定締結		
実 施 者	倉敷考古館長、就実大学人文科学部長		
日 付	平成 28 年 10 月 15 日	場 所	倉敷考古館
対 象 者	倉敷考古館、人文科学部	参 加 人 数	8 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>公益財団法人倉敷考古館と就実大学人文科学部間において、平成 28 年 10 月 15 日連携協定を締結した。調印は、大原美術館副館長・倉敷考古館理事虫明優氏と就実大学長片岡洋行教授の立ち合いの下で、考古館長香川俊樹氏と人文科学部長松尾直昭によって、倉敷考古館において行われた。</p> <p>協定は相互の活動の充実を図るもので、館側からは、所蔵品の整理、分類と所蔵品のデータベース化の作業などに大学側の技術と人材の協力を求め、大学はこれに応えるが、このことが、大学にとっては、作業に参加する学芸員資格取得希望の学生たちの貴重な現場体験を確保することになり、専門職を希望する学生達の現場での生きた専門知識の修得に繋がるものである。このような相互の活動の充実を目標にして連携協定が締結された。以上の協力内容に加えて、倉敷の観光客の多様な国際化に対応した所蔵物の多言語化サービスを、展示品の紹介内容の翻訳のみならず、観光客の通訳ガイドボランティアとしても実施する計画もある。この場合には、本学の外国人教員と、実践英語学科の学生に協力をもとめることになるであろう。さらに、考古館には未整理の書物も多数所蔵されていて、この整理も課題である。この課題を解決するために、司書資格取得希望の学生たちの協力を得れば、考古館所蔵図書の整理もでき、学生に対しては、現場体験を通じた専門知識修得の貴重な体験を提供することが可能であろう。</p> <p>調印式の内容は、山陽新聞社 10 月 16 日版に紹介され、倉敷ケーブルでは当日放映された。実践教育を通して観光客や市民の方々に喜ばれ、評価されるようになれば、学生のやりがいや充実感につながるため、高等教育機関にとって、実に有意義な教育的効果の高い協定だと思える。考古館側にとっては、市民へのサービスの充実と、増加している外国人入館者への多方面でのサービスによって、地域への貢献を図ることのできる協定であり、相互に有益なものであるといえよう。倉敷考古館は、もともとは江戸期に利用されていた蔵を改装したもので、美観地区に 1950 年に開館した。大原グループ運営の施設である。古代吉備をテーマにして、県内の発掘等によって出土した貴重な土器、鉄器、埴輪等の出土品を多く所蔵し、展示している。</p> <p>この協定が、土井通弘教授と中西裕教授の尽力によって成立したことを、感謝したい。</p>			
			

主 催	産業考古学会、岡山近代化遺産研究会		
タ イ ト ル	近代化遺産とその文化的景観（シリーズ講演会）		
実 施 者	人文科学部総合歴史学科、櫻田美津夫		
日 付	平成 28 年 7 月 16 日 平成 29 年 3 月 11 日	場 所	岡山県立図書館多目的ホール
対 象 者	一般	参 加 人 数	80 名程度(平 28. 7. 16)

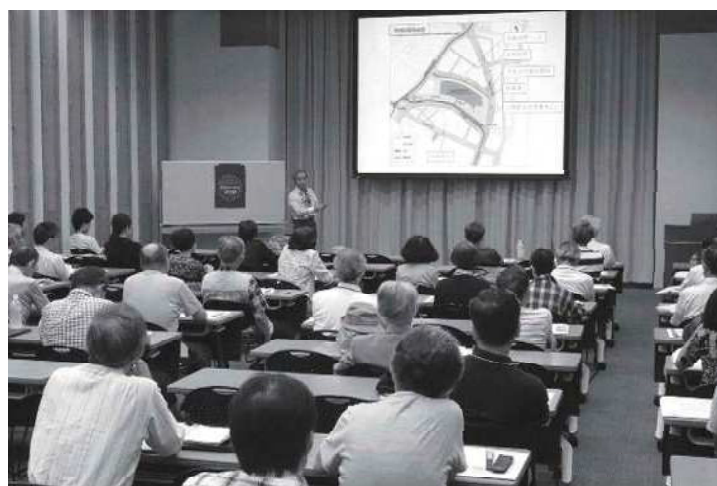
概要（本文・写真・図等）

このシリーズ講演会の共催は、岡山県立図書館、就実大学史学会、吉備国際大学となっており、岡山県、教育委員会、新聞各社、放送各局など多数の後援を得ている。また、福武教育文化振興財団からの助成も得られた。

櫻田は第 1 回の講演を担当した。併せて、第 5 回のシンポジウムのパネリストをも務める予定である。

7 月 16 日の第 1 回公演では、出島の歴史から説き起こし、出島復元を可能にした資料について詳しく解説した。(1)発掘調査の結果、(2)長崎市内の戦争を生き延びた類例建物の存在、(3)オランダ商館長日記のような文献史料、(4)復元予定の時代より少し後の時代の古写真、(5)間取りや配置を示す図面、(6)オランダ人が造らせて本国に持ち帰った出島の模型、(7)川原慶賀を代表とする日本人絵師による絵画など、奇跡的と言ってよいほど多様な資料が揃っていたことを強調した。最後に蘭学の歴史的意義を説きつつ、出島自体は反射炉でも造船所でも紡績工場でもないが、西洋科学・技術の日本への移転にとって、つまり日本の近代化にとって、一種の「中継場」として比類なき役割を果たしたことを示した。また、100 年単位での息の長い景観復元事業からは多々学ぶ点があることを力説した。

なお、この講演の様子は、後援者に名を連ねる oni ビジョンによって、2016 年 7 月 23 日午後 5 時より 90 分間放映された（放映されたのは櫻田の講演のみ）。



主 催	就実大学教育学部・矢掛町教育委員会		
タ イ ト ル	矢掛町「地域未来塾」事業		
実 施 者	矢掛町教育委員会		
日 付	平成 28 年 8 月 4 日～	場 所	矢掛町公民館
対 象 者	矢掛町内 児童生徒	参 加 人 数	30 名

概要（本文・写真・図等）

就実大学教育学部は、矢掛町教育委員会と「地域未来塾」事業等に関する基本協定を締結しました（写真上は調印式H.28.8.4）。

「地域未来塾」事業とは、矢掛町が家庭の経済格差が学力格差に繋がらないよう、放課後の児童生徒への学習支援を行う、町独自の教育政策です。その学習支援員として、本学教育学部学生が協力することになりました。参加学生にとって、教職を目指す学生自身の資質・能力を高め、子どもたちの学習環境や教育施策の実態を知る機会になるなど、貴重な体験の場となっています（写真下は中学生対象タブレット授業（H28.12.12）の様子）。また大学側にとっても、教員養成教育への地域からの要請を知る機会となり、教育実習や学校インターンシップ、教員採用などに向けた良好な関係の基盤づくりにも資することになります。本事業における協力関係の構築と推進が、本学教育学部の目指す地域と連携した教員養成教育のモデルケースとなることを期待しています。

なお、調印式の模様は中国新聞（H28.8.9）に、未来塾の様子は山陽新聞（H28.8.24）に、事業概要は矢掛町広報誌「広報やかげ」平成 28 年 8 月号（8 月 17 日発行）に掲載されました。



主 催	平成 28 年度コドモさんかくゼミ FOR GIRLS 理系っていいかも！未来のリケジョ応援プロジェクト		
タ イ ト ル	もっともっと理科がすきになる実験教室 第 2 回 よく知っている臓器を顕微鏡で見よう！		
実 施 者	洲崎悦子		
日 付	平成 28 年 8 月 24 日	場 所	就実大学薬学部 2 階実習室
対 象 者	小学校 4～6 年生	参 加 人 数	16 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>塩田先生が中心となられて、岡山市男女共同参画推進センターさんかく岡山が主催する行事に、協力・実施をした。</p> <p>薬学部女性教員 4 名が、全 4 回の「もっともっと理科がすきになる実験教室」を就実大学薬学部で行ったうちの 1 回を担当した。</p> <p>薬学部 2 階南側実習室に顕微鏡 23(=16+7)台を準備し、以下の内容を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間：10:00～12:30 ・医療系で一般的染色である HE 染色の体験・・・各自未知標本の染色 ・7 種類の組織標本の観察 ・7 種類の標本観察を踏まえた上で、自分の未知標本がどの臓器のものであるかを同定 ・顕微鏡写真の印刷物に、自由に好きな書き込みを行い、ラミネート加工してオリジナルシートを作製 <p>参加してくれた小学生達は、大変熱心に取り組み、自分達の体やそれを構成する細胞に興味をもってくれた様子であった。</p> <p>また、この内容は、RSK ラジオでも生中継(11:50～5 分間；アナウンサー渡壁さん)された。</p>			

主 催	科学キッズフェスティバル実行委員会（岡山県生涯学習センター）		
タ イ ト ル	身近なもので電池を作ってみよう！		
実 施 者	増田和文、加藤久登、薬学部学生3名		
日 付	平成28年12月11日	場 所	岡山県生涯学習センター
対 象 者	小学生～高校生	参加人数	200名

概要（本文・写真・図等）

12月11日（日）岡山県生涯学習センターにて開催された「科学キッズフェスティバル in 京山祭」（学校、企業、NPO法人などの36団体が出展）に『身近なもので電池を作ってみよう！』をタイトル、「化学電池」をテーマとして出展した。小学1～3年生120名、その保護者80名の計200名が出展ブースを訪れ、スライム電池、レモン電池を作る体験に加え、化学電池の原理を学んだ。特にスライム電池は、スライム作りの面白さが人気で、さらに電池ができることに驚きもあって大変好評であった。電池作りを通して、科学の面白さが伝えられたのではないかなと思う。今後もこのような機会があれば参加していきたい。



パンフレット



スライムを作る子供たち



電池の原理を説明するポスター

主 催	津山洋学資料館		
タ イ ト ル	平成 28 年度冬季企画展「山田純造生誕 180 周年記念 海田の医家 山田家の人と学問」への協力企画として、「よみがえる山田家伝来の家伝薬—成分分析の結果と処方の再現—」		
実 施 者	洲崎 悦子、齋藤 啓太、佐々木 寛朗		
日 付	平成 28 年 12 月 4 日	場 所	津山洋学資料館
対 象 者	一般	参 加 人 数	約 30 名

概要 (本文・写真・図等)

山田家伝来の著明な家伝薬「不換金正気散」「山田吸出膏薬」「虫薬浄腐湯」「家伝海田萬能膏薬」という 4 処方に関する、分析と再現を試みた。

残存していた薬 : 高速液体クロマトグラフィーとフーリエ変換型赤外分光で分析し、4 処方のどれに相当するかを検討した。

また、講演会当日と冬季企画展中、分析結果のポスター展示も行った。

(齋藤)

残存していた処方 : 処方に出てくる生薬を検討して相当する生薬を収集し、処方に従った調剤を行い 4 処方の再現を試みた。講演会当日に再現を実演で示し、また、冬季企画展中、再現薬の展示も行った。

(佐々木)

全体の企画と統括 (洲崎)

講演会当日は、山田家当代奥様を含む来館者約 30 名は、とても興味深く聴講して下さり好評を博した。資料館の館長はじめ職員の方々の評価も高かった。さらに、下山元館長は、山田家資料や残存薬の発掘者でもあり、特に喜んでおられた。



主 催	岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
タ イ ト ル	親子で学ぼう 望遠鏡操作入門		
実 施 者	就実大学天文部		
日 付	平成 28 年 9 月 10 日	場 所	サイピア
対 象 者	小中学生、保護者	参 加 人 数	21 名

概要（本文・写真・図等）

2016年9月10日（土）18：30-20：00、人と科学の未来館サイピアにて、就実大学天文部と岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピアの共同イベントとして「親子で学ぼう！望遠鏡操作入門」が開催された。

当日は事前予約された10組約20名の親子が参加された。簡単な天体望遠鏡の仕組みや操作方法の説明のあと、実際に、屈折式の天体望遠鏡の使い方を天文部の学生達やサイピアの方から聞いて操作してみた。あいにく当日は曇り空だったが、雲の合間から半月が見えたので、天体望遠鏡を屋外に持って出て月の観測も行ってみた。月のクレーターが見えると子供達は「すごい！」と喜んで、大きな天体望遠鏡には列を作って観測をしていた。

家庭にあっても意外にわからない、或いは買ってもなかなか教えてもらえない天体望遠鏡の使い方を詳しく知ることができるこのイベントは毎年好評で、天文部の社会活動の一環として、今後もサイピアと共同で開催していく予定である。



主 催	ビブリオバトル普及委員会		
タ イ ト ル	全国大学ビブリオバトル2016 京都決戦中国Bブロック地区予選		
実 施 者	就実ビブリオバトルクラブ		
日 付	平成28年11月19日	場 所	就実大学図書館 AV ホール
対 象 者	大学生、教員、一般	参 加 人 数	21名

概要（本文・写真・図等）

2016年11月19日10時から11時半まで、就実大学図書館AVホールにて「全国大学ビブリオバトル2016 京都決戦中国Bブロック地区予選」を行い、12月京都大学で開催される全国大会に出場する中国Bブロック代表を決定した。就実ビブリオバトルクラブは、本会の開催校として運営を担当した。

内容は以下の通り。

- ①発表者（学生）数 6名
- ③およその当日参加者（聴衆と発表者）数 30人
- ④参加学校名 岡山県立大学、環太平洋大学、就実大学・就実短期大学、尾道市立大学

就実大学・短期大学からは、学内の予選を勝ち抜いた短期大学の学生が代表として発表を行った。紹介本は座右の銘「1300」である。

他大学の紹介本は、「かわいそうだね?」「王とサーカス」「君の名は。」「また、同じ夢を見ていた」「好き好き大好き超愛してる。」

発表後、参加者でチャンプ本を投票で選んだが、1回目の投票では上位2名が同数となり、再度決戦投票を行った結果、尾道市立大学の学生がチャンプ本獲得者（紹介者）となり、全国大会に出場した。当日の様子は、翌日の山陽新聞で紹介された。



主 催	玉野市＝就実大学連携		
タ イ ト ル	地域の課題解決を提案するプロジェクト(PBL：課題解決型学習)		
実 施 者	三 枝 省 三		
日 付	平成 28 年 8 月 9 日など 他 4 日	場 所	玉野市街、市庁舎など
対 象 者	玉野市	参 加 人 数	学生 11 名、市民約 10 名、市 長ほか約 5 名

概要 (本文・写真・図等)

学生の地域問題に関する意識は高く、身の回りの「課題は何か」と聞くと多くの学生が地域活性化問題を提示していた(別科目:「思考発想法入門」で)。そこでこれらの問題意識を最大限に引き出し、課題解決への考え方とアイデアを創出し、提案する実体験の機会を持つことは今後の社会での有用性と、将来の活躍の場を広げることになると考えた。

一方、社会での仕事の進め方は一つにルーティーンとして毎日こなすことと、もう一つは(決められた内容・目標・期限)のプロジェクトがある。後者は往々にして非常に大切な案件を取り上げ、複数名のスタッフが協力して問題解決にあたる。このプロジェクトの手法と前記の学生の問題意識を融合させることが、地域課題解決と同時に学生の学習意欲の向上に繋がると考えた。

そこで、本活動では、実際のプロジェクト対象として県南・玉野市の課題を取り上げ、その地域問題に対して解決案を構想するプロジェクトとして実施した。4つのグループがそれぞれ目標をたて、プロジェクトの基礎知識の実践方法の習得した。同時に、具体的な問題に対して、課題の深掘り・アプローチの考え方・アイデア出し・クリティカルシンキングを磨き、具体策を試行錯誤のうえ案出した。

上記活動のまとめとして、玉野市長に向けてプレゼンテーション(8月9日)を実施し、解決策の可能性をアピールした。その様子は山陽新聞に掲載された。本活動の実行に当たり、地元の方々やボランティア関係者の熱い協力が有った、お礼を申し上げる。



玉野市長前プレゼンの様子 (山陽新聞 2016-8/11 朝刊)

主 催	岡山県立大学・就実大学		
タ イ ト ル	地域活性化のための地域中小企業経営者支援セミナー		
実 施 者	経営学部杉山慎策学部長、鈴木新講師、加賀美太記講師、櫻木理江講師		
日 付	平成28年10月21日～12月16日	場 所	久世エスパスランド
対 象 者	真庭市内中小企業経営者及び後継者	参 加 人 数	約15名～20名

概要（本文・写真・図等）

「おokayま COC+推進協議会（代表：岡山県立大学）」が推進する文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、真庭市内の中小企業の経営者及び後継者を対象に、岡山県立大学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの教育資源を活用して、企業の経営力向上と地域創生につながる統合的地域ブランディングを目的とする全6回のセミナーとして実施した。

10月21日のオープニング講座「共同講座の目的・内容について」を杉山学部長が行い、11月25日に行われた第二回講座では加賀美太記講師が「経営戦略論入門」、12月16日の第三回講座では櫻木理江講師が「マーケティング戦略論」、1月27日の第4回講座では鈴木新講師が「管理会計入門」の各講義を担当した。

各講義には約15名が参加された。講義前半で経営戦略、マーケティング、管理会計の代表的なフレームワークについて解説し、後半にはグループワークを行った。多くの参加者が積極的に質問・発言されており、有意義なセミナーとなった。



主 催	岡山県中小企業団体中央会		
タ イ ト ル	岡山県中小企業団体中央会・就実大学中小企業の経営支援に関する連携包括提携		
実 施 者	就実大学		
日 付	平成 28 年 7 月 28 日	場 所	就実大学
対 象 者	関係者	参 加 人 数	30 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>平成 26 年 4 月の就実大学経営学部創立より、就実大学と岡山県中小企業団体青年中央会（岡山県中小企業団体中央会の青年部組織）と就実大学の間で、青年経済人の経営資質向上の為、連携した活動を実施してきた。そこで、親会である岡山県中小企業団体中央会と組織間で協定を結ぶことにより、連携を強固なものとし、青年部組織だけでなく中央会の会員と継続的に連携し岡山地域の活性化のための活動を実施していくことで合意された。</p> <p>この合意を受けて平成 28 年 7 月 28 日、岡山県中小企業団体中央会及び就実大学は、下記事項を中心として、中小企業の経営支援において連携を行うとともに相互の事業に協力することで包括提携を結んだ。</p> <p>(1) 地域の中小企業並びに中小企業組合等の経営課題の解決のための支援に関すること等 (2) 岡山県内の青年経済人の育成に関すること等 (3) 就実大学の学生の教育支援に関すること等</p>			

主 催	就実大学・就実短期大学、和気町		
タ イ ト ル	和気町と就実大学・就実短期大学との包括的連携協力		
実 施 者	和気町		
日 付	平成 29 年 2 月 23 日	場 所	和気町役場本庁舎会議室
対 象 者		参 加 人 数	
概要（本文・写真・図等）			
<p>「和気町と就実大学・就実短期大学との包括連携に関する協定書」の調印式が平成 29 年 2 月 23 日（木）に和気町役場本庁舎会議室において行われました。</p> <p>和気町では、平成 27 年 10 月に取りまとめた「和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、教育に関心のある子育て世代の移住・定住を促進するため、「教育の町・和気」構想を策定し、平成 28 年 4 月より、公営塾の本格運用を開始したほか、平成 29 年 4 月に英語特区を導入し、教育環境の向上を推進しています。</p> <p>こうした中で、本学と地方創生に向けた地域社会の発展および人材の育成に資することを目的とし、包括連携協定を締結することになりました。今後は公営塾に本学の学生を派遣するなどの交流が予定され、さらなる協力関係の構築が期待されます。</p> <p>【連携協力の内容】</p> <p>(1) 地域文化の振興に関すること</p> <p>(2) 相互の教育及び人材の育成に関すること</p> <p>(3) その他双方が必要と認めること</p>			
			

主 催	林原美術館、就実大学		
タ イ ト ル	林原美術館と就実大学との連携協定締結		
実 施 者	林原美術館理事長、就実大学長		
日 付	平成 29 年 3 月 21 日	場 所	林原美術館
対 象 者	林原美術館、就実大学	参 加 人 数	4 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>一般財団法人林原美術館と就実大学は、3月21日、所蔵品に関する研究と、学芸員資格取得希望の本学学生への教育促進に関する包括的な連携協定を締結しました。調印式は林原美術館内のホールで、長瀬玲二同館理事長と、片岡洋行就実大学長により行われました。</p> <p>同館は旧藩主池田家の什器、美術品をはじめ、多くの古典籍、古文書を所蔵しています。美術館は9千点以上の史・資料を所蔵するものの、古典籍・古文書の大半は未整理の状態であると言われていました。近年、同館の未整理のものの中から、明智光秀の家臣の書簡集「石谷家文書」や、藤原定家直筆「明月記」の断片など貴重なものが発見され、話題になりました。この協定は新たな資料の発見を目指して、本学の「吉備地方文化研究所」の教員を中心に判読し、整理や分類を通して歴史・文化との連関を探ることを目標にしています。同館は就実大学の調査力と研究力によって、未整理の文書類からの新たな発見を期待し、その成果による展示等の充実をはかり、本学は教員における研究の充実と大学全体の活性化、さらに、歴史・文化研究への貢献を目指しています。すでに、同館には学生の博物館実習を受け入れていただいているのですが、文書の判読と整理作業に、資格取得希望の学生の協力参加の可能性を摸索したいと考えています。同館の大学との協定は関西地方に一校あるのみで、岡山県下での締結は本学のみです。本学にとっては、倉敷考古館について二件目の博物館、美術館との締結です。今回の締結は、土井通弘人文科学部教授の尽力があって実現しました。</p>			
			

主 催	大学コンソーシアム岡山		
タ イ ト ル	下記の地域貢献活動		
実 施 者	大学コンソーシアム岡山加盟各大学ならびに岡山県・岡山市等		
日 付		場 所	
対 象 者		参 加 人 数	
概要（本文・写真・図等）			
<p>今年度より本学が大学コンソーシアム岡山の代表校となり、大学コンソーシアム岡山運営委員長として、地域貢献に関する活動を行っている。以下に主なものを示す。それぞれの詳細は省略する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山県・岡山県中小企業団体中央会・大学コンソーシアム岡山連携合同企業説明会「就活クエスト」（2016年3月10日、ジップアリーナ岡山） ・ 熊本地震復興ボランティア派遣（岡山経済同友会との連携事業として、岡山県内の大学生24名を派遣（2016年5月2日～6日））。 ・ G7 倉敷教育大臣会合シンポジウム「大学教育イノベーション in OKAYAMA」の実施。（2016年5月8日） ・ 山陽新聞社との連携事業として「吉備創生カレッジ」の実施（通年）。 ・ 大学コンソーシアム岡山「日ようび子ども大学」（2016年6月5日、岡山県生涯学習センター）の実施。 ・ 大学コンソーシアム岡山「エコナイト」（2016年7月9日、奉還町商店街、6月～8月各加盟大学） ・ 岡山県中小企業団体中央会・大学コンソーシアム岡山連携事業「インターンシップ事前研修会」（2016年7月10日、三木記念ホール） ・ 岡山大学・大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援研修会」（2016年8月23日、岡山大学） ・ 全国大学コンソーシアム協議会における大学コンソーシアム岡山の活動紹介（2016年9月10～11日、広島）。 ・ 岡山県・岡山県中小企業団体中央会・大学コンソーシアム岡山連携合同企業説明会「就活クエスト」（2017年3月に岡山ドームで開催予定） 			

主 催	児童文化部		
タ イ ト ル	児童文化部活動記録		
実 施 者	児童文化部		
日 付	平成 28 年度	場 所	地域の児童館、図書館等
対 象 者	地域の子どもや保護者	参 加 人 数	

概要（本文・写真・図等）

2016年度児童文化部活動記録(2016年4月～2017年3月)			
		場所	内容
2016年4月	9日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
		浜川原児童館	入学式お祝い会
	29日	旭川荘	旭川荘春祭り
2016年5月	7日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	21日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
	22日	北ふれあいセンター	ウォーキングの補助
	28日	岡山県総合グラウンド	春の子どもまつり
2016年6月	5日	西ふれあいセンター	エコフェスタ穂所
	18日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
		幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2016年7月	3日	北ふれあいセンター	夏まつり補助
	9日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
	10日	南ふれあいセンター	夏まつり補助
	16日	とみはら児童館	お祭りの手伝い
		長島病院	夏まつり補助
	18日	西大寺ふれあいセンター	お祭りの手伝い
	23日	浜川原児童館	夏まつり補助
	25日	ウエルポート灘崎	ウエルポートまつり補助
	28日	旭川荘	夏まつり補助
2016年8月	6日	西ふれあいセンター	工作の補助
	12日	岡山福祉交流プラザ富原	子どもエコまつり補助
	25日	幸島小学校	学童保育での保育
2016年9月	10日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	22日	岡山ふれあいセンター	ウォーキングの補助
	24日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2016年10月	8日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	15日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
	30日	富山小学校体育館	ハロウィンまつりで劇
2016年11月	3日	岡山ドーム	障害者Tボール大会補助
	6日	山陽ふれあい公園	工作、忍者をテーマとしたブースの遊び補助
		岡山ドーム	秋の子どもまつり
	12日	閑谷ワークセンター	まつりの補助
		財田児童館	ゲーム、工作補助
		浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	20日	西ふれあいセンター	ふれあいまつりで子どもたちと遊ぶ
		国際交流センター	
	27日	西大寺ふれあいセンター	ウォーキングの補助
2016年12月	3日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	11日	後楽園	クリスマス会でのペープサート
	17日	幸町図書館	クリスマス会でのハンドベル演奏
2017年1月	7日	西ふれあいセンター	昔遊びや工作の補助
		浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
2017年2月	18日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
	25日	国際交流センター	外国人を送る会補助
		幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2017年3月	4日	赤磐市立中央図書館	子育てネットワーク事業補助
2017年3月	7日	浮田小学校	お別れ会

各種学外委員会の応嘱

所 属	教育学研究科	職 位	教 授	氏 名	山 本 力
内 容	①岡山県人権政策審議会・委員 ②岡山県子どもほっとライン調査研究委員会・委員長				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日 ②平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川 崎 剛 志
内 容	①人間文化機構国文学研究資料館 国文学文献資料調査員 ②日本山岳修験学会 理事 ③説話文学会 委員 ④神戸女子大学古典芸能研究センター 客員研究員				
期 間	①平成13年4月1日～現在 ②平成23年10月1日～（評議員）、平成25年10月1日～現在（理事） ③平成27年4月1日～現在 ④平成27年4月1日～現在				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	教 授	氏 名	田 淵 博 文
内 容	①大学英語教育学会中国・四国支部代議員 ②大学英語教育学会中国・四国支部研究企画委員 ③全国商業高等学校英語スピーチコンテスト岡山県予選会審査員				
期 間	①平成8年4月1日～現在 ②平成15年4月1日～現在 ③平成14年4月1日～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	高 橋 文 博
内 容	①独立行政法人労働者健康福祉機構 岡山労災病院 倫理委員会委員 ②一般社団法人 高等教育国際基準協会理事 ③NPO法人 ヘルスサイエンス地域国際センター理事、NPO法人 口腔健康科学ネット理事 ④岡山大学医療系部局研究倫理委員会専門委員会委員 ⑤一般財団法人 牛窓海洋スポーツ振興会理事 ⑥一般財団法人 淳風会健康管理センター 臨床研究審査委員会 審査委員				
期 間	①平成22年4月～現在 ②平成25年12月～現在 ③平成26年4月～現在 ④平成26年4月～現在 ⑤平成27年6月～現在 ⑥平成28年4月～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	門 原 眞 佐 子
内 容	①岡山県教育委員会教育実習評価モデル作成に係るワーキンググループ委員				
期 間	①平成28年11月16日～平成29年3月31日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	丹 生 裕 一
内 容	①笠岡市学校運営協議会スーパーバイザー				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
内 容	①兵庫教育大学岡山会 理事 ②岡山県小学校教育研究会岡山支会算数部会 顧問 ③塩野直道記念第4回「算数・数学の自由研究」 審査員				
期 間	①平成25年4月1日～現在 ②平成28年4月1日～現在 ③平成28年6月1日～平成28年11月30日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
内 容	①瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員（放課後児童クラブ部会副会長） ②社会福祉法人 弘徳学園 評議員				
期 間	①平成28年4月1日～現在 ②平成26年7月1日～現在				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	北 川 歳 昭
内 容	①岡山市保健福祉政策審議会委員 ②岡山市障害者福祉政策推進協議会委員 ③岡山県警察署安全部生活相談員				
期 間	①②平成27年11月16日～平成28年11月15日 ③平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
内 容	①専門指導員派遣事業に係る専門家チーム員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 み ち る
内 容	①岡山市学校問題解決サポート事業 専門相談員 ②岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業 スーパーバイザー ③瀬戸内市子ども包括支援推進協議会委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日 ②平成28年4月1日～平成29年3月31日 ③平成28年5月10日～平成29年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	森 宏 樹
内 容	①中国・四国学校保健学会 理事				
期 間	①平成26年7月～				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
内 容	①岡山市教育委員会委員 ②岡山市男女共同参画推進センター（さんかく岡山）運営委員会委員 ③岡山市青少年問題委員会委員 ④岡山市薬剤師会常任理事 ⑤岡山市薬剤師会オープンフォーラム委員会委員 ⑥日本細菌学会中国四国支部会評議員 ⑦日本薬学会薬学教育委員会委員 ⑧日本薬学会広報委員会委員 ⑨薬学教育協議会 微生物学教科担当教員会議世話人				
期 間	①平成22年10月8日～平成30年10月7日（2期目） ②平成22年4月1日～平成30年3月31日（4期目） ③平成26年9月1日～平成30年8月31日（2期目） ④平成27年4月1日～現在 ⑤平成19年4月1日～現在 ⑥平成16年4月1日～現在 ⑦平成27年4月1日～平成29年3月31日 ⑧平成26年4月1日～平成30年3月31日（2期目） ⑨平成28年4月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴 田 隆 司
内 容	①岡山県薬剤師教育研修員				
期 間	①平成28年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	片 岡 洋 行
内 容	①薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員 ②Analytica Chimica Acta: Editorial Advisory Board member (Elsevier) ③Analytical Chemistry Letters: Editorial Board (Vinayak-Graphics) ④Journal of Environmental & Analytical Toxicology: Editorial Board Member (OMICS) ⑤日本分析化学会中国四国支部幹事 ⑥おかやまバイオアクティブ研究会幹事 ⑦Analytical Methods in Chemistry Editorial Board Member (Hindawi) ⑧Solid-Phase Extraction Techniques: Editorial Advisory Board (Versita) ⑨Editorial Board Member of Chromatography (Japan) ⑩クロマトグラフィー科学会評議員 ⑪Permanent Contributing Editors in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier)				

	<p>⑫日本薬学会中国四国支部代議員 ⑬薬学教育評価機構評価実施委員 ⑭Editorial Board Member of Journal of Translational Biomarkers & Diagnosis (SciDoc Publishers) ⑮Editorial Board Member of Journal of Bioanalytical Techniques (Sciforschen) ⑯日本私立短期大学協会中四国支部評議員 ⑰日本私立大学協会中四国支部評議員 ⑱国際化を進める岡山中央協議会理事 ⑲岡山県薬事審議会委員部会長 ⑳大学コンソーシアム岡山 第六期会長 ㉑岡山県私立短期大学協会副会長 ㉒日本私立短期大学協会理事・中四国支部監事 ㉓第2回岡山マラソン実行委員会委員 ㉔第4回岡山芸術交流実行委員会委員 ㉕岡山IEU協会理事 ㉖G7倉敷教育大臣会合応援事業シンポジウム「大学教育イノベーションin Okayama」 ㉗日ようびこども大学</p>
<p>期 間</p>	<p>①平成15年4月1日～現在 ②平成21年1月1日～現在 ③平成23年1月1日～現在 ④平成23年4月1日～現在 ⑤平成23年4月1日～現在 ⑥平成23年4月1日～現在 ⑦平成23年11月1日～現在 ⑧平成24年1月1日～現在 ⑨平成24年4月1日～現在 ⑩平成24年4月1日～現在 ⑪平成24年4月1日～現在 ⑫平成25年4月1日～現在 ⑬平成26年4月1日～現在 ⑭平成27年10月1日～現在 ⑮平成27年10月1日～現在 ⑯平成27年4月1日～現在 ⑰平成27年4月1日～現在 ⑱平成27年4月1日～現在 ⑲平成27年4月1日～平成29年3月31日 ⑳平成28年4月1日～現在 ㉑平成28年4月1日～現在 ㉒平成28年4月1日～現在</p>

<ul style="list-style-type: none"> ㉓平成28年4月1日～平成29年3月31日 ㉔平成28年4月1日～平成29年3月31日 ㉕平成28年4月1日～現在 ㉖平成28年5月8日 ㉗平成28年6月5日

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教授	氏 名	西 村 多美子
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ①日本薬学会 代議員 ②日本薬理学会 学術評議員 ③日本レギュラトリーサイエンス学会 社員（評議員） 				
期 間	<ul style="list-style-type: none"> ①平成23年4月～現在 ②昭和62年～現在 ③平成23年7月～現在 				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教授	氏 名	見 尾 光 庸
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ①薬学教育協議会薬理学関連教科担当教員会議委員 ②日本私立薬科大学協会教務部長会委員 ③日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会薬理学部会委員 ④大学コンソーシアム岡山 運営委員会委員長 ⑤大学コンソーシアム岡山企画委員会委員長 ⑥大学コンソーシアム岡山社会人教育委員会委員 ⑦大学コンソーシアム岡山共同教育委員会委員 ⑧大学コンソーシアム岡山将来構想委員会委員 ⑨大学コンソーシアム岡山-岡山県連携PR事業実行委員長 ⑩岡山観光コンベンション協会理事 ⑪エコパートナーシップ岡山企画運営委員 ⑫岡山芸術交流実行委員会幹事会委員 ⑬岡山ESD推進協議会委員 				
期 間	<ul style="list-style-type: none"> ①平成15年4月～現在 ②平成25年4月～現在 ③平成20年4月～現在 ④平成28年4月～現在 ⑤平成28年4月～現在 ⑥平成28年4月～現在 ⑦平成25年4月～現在 ⑧平成23年4月～現在 ⑨平成27年12月～現在 ⑩平成28年5月～現在 				

①平成28年4月～現在
②平成28年4月～現在
③平成28年4月～現在

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
内 容	①岡山県環境放射線等測定技術委員会委員 ②(社)日本アイソトープ協会本部企画委員 ③主体的学び研究所 客員フェロー ④Pasteur Society Japan (日本パスツール協会) プレスリリース日本語版作成委員 ⑤日本軟骨代謝学会評議員 ⑥日本生化学会評議員 ⑦硬組織再生生物学会理事 ⑧日本食品衛生学会理事 (中国四国ブロック担当) ⑨おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員 ⑩Editorial Board of Pathology and Laboratory Medicine ⑪「遺伝子工学」教科書編集委員会 代表編集委員 (廣川書店) ⑫日本放射線安全管理学会第15回学術大会副大会長				
期 間	①平成22年4月1日～ ②平成26年4月1日～ ③平成27年4月1日～ ④平成15年4月1日～ ⑤平成11年3月1日～ ⑥平成17年10月1日～ ⑦平成16年10月1日～ ⑧平成25年3月1日～ ⑨平成25年10月11日～ ⑩平成28年11月1日～ ⑪平成27年4月1日～ ⑫平成27年12月21日～平成28年12月2日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	洲 崎 悦 子
内 容	①津山洋学資料館 協議会委員				
期 間	①平成21年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
内 容	①日本気象予報士会岡山支部長 ②日本環境変異原学会評議員 ③日本環境変異原学会編集委員				
期 間	①平成19年3月31日～平成29年3月31日 ②平成28年1月1日～平成29年12月31日 ③平成28年1月1日～平成29年12月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
内 容	①薬学共用試験センター CBT実施委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	島 田 憲 一
内 容	①岡山県薬剤師会 薬局委員会委員 ②薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中国四国地区調整機構事務局長 ③岡山市介護認定審査会委員 ④食品安全モニター ⑤抗がん剤曝露対策協議会行動目標ワーキンググループ委員				
期 間	①平成20年4月1日～現在 ②平成22年4月1日～現在 ③平成25年4月1日～現在 ④平成27年4月1日～現在 ⑤平成28年10月21日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	古 林 呂 之
内 容	①公私立大学実験動物施設協議会代議員 ②岡山市薬剤師会 薬物乱用防止委員会委員 ③日本学術振興会 科学研究費専門委員会委員				
期 間	①平成24年4月～現在 ②平成26年4月～現在 ③平成27年12月～平成28年11月				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	加 地 弘 明
内 容	①岡山県薬剤師会 在宅特別委員会委員 ②岡山県薬剤師会 岡山薬学フォーラム実行委員 ③岡山県薬剤師会 薬局委員会ルーブリック評価WG				
期 間	①平成26年6月～現在 ②平成26年7月～現在 ③平成28年12月～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
内 容	①岡山市経済政策審議会等委員 ②岡山市基本政策審議会委員 ③岡山県立城東高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 ④つやま産業支援センター運営協議会会長 ⑤津山市観光戦略アクションプラン策定委員会委員 ⑥公益財団法人中島記念財団 ⑦日本貿易振興機構（JETRO）岡山県有識者懇談会 ⑧地球温暖化防止プロジェクト推進会議臨時委員 ⑨岡山県環境文化部指定業者選定に係る外部有識者会議委員				
期 間	①平成28年11月15日～平成30年11月14日 ②平成28年11月15日～平成30年11月14日 ③平成28年4月1日～平成30年3月31日 ④平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑤平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑥平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑦平成28年6月3日 ⑧平成28年7月1日～平成29年3月31日 ⑨平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	谷 口 憲 治
内 容	①岡山県農地中間管理事業有識者会議委員 ②笠岡市干拓地情報交換アドバイザー ③島根県農政審議会委員（会長） ④島根県新農林水産振興がんばる地域応援総合事業外部評価委員 ⑤島根県しまね農業農村整備指針2016-2019検討委員会委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日 ②平成28年4月1日～平成29年3月31日 ③平成21年4月1日～ ④平成23年4月1日～ ⑤平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	三 枝 省 三
内 容	①広島県イノベーション人材等育成事業「広島県未来チャレンジ資金」有識者委員 ②中経連 人材育成専門部会 第2分科会委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日 ②平成28年10月12日～平成29年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野 本 明 成
内 容	①岡山市公の施設の指定管理候補者選定委員会委員 ②笠岡市施策評価委員会委員 ③笠岡市総合計画審議会委員				
期 間	①平成27年6月17日～平成29年6月16日 ②平成28年8月22日～平成28年9月30日 ③平成28年9月26日～平成29年11月頃				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
内 容	①特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド監事 ②岡山市中区区づくり推進事業審査会副委員長 ③山田方谷研究会理事（任意団体）				
期 間	①平成14年～ ②平成28年度～ ③平成24年度～				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	林 俊 克
内 容	①平成28年度スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日まで				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	八 巻 恵 子
内 容	①Deputy Chair of Commission on Enterprise Anthropology, Union of International Association of Anthropology and Ethnology. (国際人類学・民族学科学連合 企業人類学委員会 副委員長) ②社会・経済システム学会 理事 ③世界コスプレサミット 学術委員 ④西日本旅客鉄道株式会社岡山支社 地域共生推進アドバイザー ⑤『龍の仕事展』実行委員 ⑥全国医師会医療秘書学院連絡協議会 運営委員 ⑦津山市観光協会・西日本旅客鉄道株式会社岡山支社「旅立ちの汽笛」ポエム (津山まなびの鉄道館) 審査員				
期 間	①平成25年8月～現在 ②平成27年6月～現在 ③平成26年8月～現在 ④平成28年3月～現在 ⑤平成27年6月～現在 ⑥平成27年7月～現在 ⑦平成28年2月～6月				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	寺 本 佳 苗
内 容	①女性活躍推進協議会 ②親へのエール論文コンクール審査委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成30年3月31日 ②平成28年10月19日～平成29年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加 賀 美 太 記
内 容	①くらしと協同の研究所 研究委員・『くらしと協同』編集委員 ②全労済協会「協同組合研究会」研究会委員				
期 間	①平成26年6月1日～現在 ②平成27年4月24日～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	櫻 木 理 江
内 容	①岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員 ②岡山県農林水産部指定管理者候補選定委員会委員				
期 間	①平成27年5月19日～平成29年3月31日 ②平成28年7月1日～平成28年12月28日				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
内 容	①岡山県生涯学習審議会 審議委員 ②瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員				
期 間	①平成27年8月1日～平成29年7月31日 ②平成26年7月2日～現在				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹 倉 千佳弘
内 容	①国民教育文化総合研究所・「貧困と子ども・学力」研究委員				
期 間	①平成27年4月1日～平成20年3月31日				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
内 容	①岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員 ②広島県立美術館評価委員会 委員				
期 間	①平成28年4月1日～平成29年3月31日 ②平成28年4月1日～平成29年3月31日				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	畦 五 月
内 容	①全国健康保険協会岡山支部 健康づくり事業協議会委員 ②岡山県国民保護協議会委員				
期 間	①平成28年4月1日から平成29年3月31日 ②平成28年4月1日から平成29年5月11日				

講師の派遣

所 属	教育学研究科	職 位	教 授	氏 名	山 本 力
実 施 日	①平成28年7月10日 ②平成28年9月～12月 ③平成28年11月20日 ④平成29年1月28日				
事業主催者（依頼元）	①上智大学 ②岡山県教育総合センター ③広島大学心理臨床センター ④就実中学校				
タ イ ト ル	①がん医療講座：グリーンケアの心理臨床 ②教育相談の事例研究について、及び事例検討会（全4回） ③専門講演：「外傷性悲嘆」の心理臨床 ④保護者講演：親と子どもの心理的距離の取り方				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	井 上 啓 治
実 施 日	①平成28年12月5日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創生カレッジ				
タ イ ト ル	①「ずれとずらしの文化——雅俗の狭間に生きた江戸の文人たち」				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 裕
実 施 日	①平成28年11月21日				
事業主催者（依頼元）	①大学コンソーシアム岡山／山陽新聞社 山陽新聞社				
タ イ ト ル	①吉備創生カレッジ 「ずれ」と「ずらし」の文化 音楽メディアと『ずらし』文化—音楽の創造と消費はどう変わったか—				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	中 崎 崇
実 施 日	①平成28年11月7日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創生カレッジ事務局				
タ イ ト ル	①「ずれ」と「ずらし」の文化 人はいかに発話を理解するか				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	准教授	氏 名	武 部 好 子
実 施 日	①平成28年6月4日・5日 ②平成28年9月8日				
事業主催者（依頼元）	①シアターX（カイ）（東京 両国） ②ライフパーク倉敷 市民学習センター				
タ イ ト ル	①第12回 シアターX 国際舞台芸術祭2016 特別公演 劇団 Mouth on Fire 【TIME PASSES/時は流れる】サミュエル ベケット作品 上演前の劇団からのプレトーク 及び 終演後の観客とのアフターミーティングにおける通訳 ②「知られざる通訳の世界！」				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	櫻 田 美 津 夫
実 施 日	①平成28年9月16-17日（90分授業各2回、計4回） ②平成29年2月21日				
事業主催者（依頼元）	①ライデン大学東京事務所 ②公益財団法人 岡山市ふれあい公社				
タ イ ト ル	①偉大なオランダ人たち — 人物オランダ史 ②小説や映画でたどる歴史				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	荻 米 一 志
実 施 日	①平成28年4月24日 ②平成28年9月25日 ③平成28年10月4日 ④平成28年10月29日 ⑤平成28年11月26日 ⑥平成29年3月26日				
事業主催者（依頼元）	①まなびの広場 岡山 ②まなびの広場 岡山 ③日本科学者会議 岡山支部 ④笠岡市教育委員会 ⑤神奈川県立金沢文庫 ⑥まなびの広場 岡山				
タ イ ト ル	①備前国府周辺を歩く ②日本中世の古文書を読む ③日本中世の世界へようこそ ④笠岡地域の古文書を読む ⑤中世真言律宗と殺生戒 ⑥日本中世の古文書を読む（2）				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	吉 田 満 穂
実 施 日	①平成29年2月21日				
事業主催者（依頼元）	①YMCAせとうち				
タ イ ト ル	①子育てセミナー「子どもに会おう」				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	門 原 眞 佐 子
実 施 日	①平成28年 7月15日 ②平成28年 8月26日 ③平成28年 9月14日 ④平成28年11月11日 ⑤平成29年 1月27日 ⑥平成29年 2月 4日 ⑦平成29年 2月17日				
事業主催者（依頼元）	①津山教育事務所生涯学習課 ②倉敷市教育委員会生涯学習課 ③総社市教育委員会こども夢づくり課 ④総社市教育委員会こども夢づくり課 ⑤総社市教育委員会こども夢づくり課 ⑥真庭市教育委員会子育て支援課 ⑦新見市教育委員会学校教育課特別支援教育部会				
タ イ ト ル	①子どもの育ちを支えるために つなげる・つながるの視点に立って ②「今、ここで」を大切にしたいかわりについて ③総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ④総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ⑤総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ⑥園をつくり園を支える保育者に ⑦みんなで支えみんなで育てる新見っ子				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	丹 生 裕 一
実 施 日	①平成28年12月16日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県国公立幼稚園教育研究会総社支部				
タ イ ト ル	①幼児期の言葉の発達について ―アプローチカリキュラムの具体化を考える―				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
実 施 日					①平成 28 年 5 月 6 日 ②平成 28 年 5 月 17 日 ③平成 28 年 5 月 20 日 ④平成 28 年 5 月 27 日 ⑤平成 28 年 5 月 31 日 ⑥平成 28 年 6 月 3 日 ⑦平成 28 年 6 月 10 日 ⑧平成 28 年 6 月 14 日 ⑨平成 28 年 6 月 24 日 ⑩平成 28 年 6 月 28 日 ⑪平成 28 年 7 月 1 日 ⑫平成 28 年 8 月 12 日 ⑬平成 28 年 8 月 17 日 ⑭平成 28 年 8 月 18 日 ⑮平成 28 年 8 月 19 日 ⑯平成 28 年 8 月 22 日 ⑰平成 28 年 8 月 23 日 ⑱平成 28 年 8 月 24 日 ⑲平成 28 年 8 月 25 日 ⑳平成 28 年 8 月 25 日 ㉑平成 28 年 8 月 29 日 ㉒平成 28 年 8 月 30 日 ㉓平成 28 年 9 月 9 日 ㉔平成 28 年 9 月 30 日 ㉕平成 28 年 10 月 7 日 ㉖平成 28 年 10 月 12 日 ㉗平成 28 年 10 月 21 日 ㉘平成 28 年 10 月 26 日 ㉙平成 28 年 11 月 4 日 ㉚平成 28 年 11 月 10 日 ㉛平成 28 年 11 月 11 日 ㉜平成 28 年 11 月 18 日 ㉝平成 28 年 11 月 25 日 ㉞平成 29 年 1 月 31 日 ㉟平成 29 年 2 月 17 日
事業主権者（依頼元）					①倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ②岡山県立岡山支援学校 ③倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校

	<p>④岡山県立岡山支援学校 ⑤勝央町教育委員会 ⑥真庭市立木山小学校 ⑦倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ⑧岡山県立岡山支援学校 ⑨倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ⑩勝央町教育委員会，勝央町立勝央北小学校 ⑪浅口市立金光竹小学校 ⑫津山市学校教育研究センター算数部会 ⑬三重県桑名市教育委員会，三重県桑名市教育研究所 ⑭三重県松坂市立阿坂小学校 ⑮真庭市立砦部小学校 ⑯真庭市立木山小学校 ⑰勝央町教育委員会 ⑱笠岡市教育委員会，笠岡市教育研修所小学校算数研修部会 ⑲赤磐市立山陽北小学校 ⑳岡山市立大元小学校 ㉑倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉒倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉓浅口市立金光竹小学校 ㉔倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉕勝央町教育委員会，勝央町立勝間田小学校 ㉖三重県松坂市立阿坂小学校 ㉗倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉘三重県桑名市立長島北部小学校 ㉙真庭市立砦部小学校 ㉚笠岡市教育委員会，笠岡市幼・小・中校園長会 ㉛岡山県数学教育会，中国・四国地区数学教育会 ㉜倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉝赤磐市立山陽北小学校 ㉞倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校 ㉟倉敷市教育委員会，倉敷市立第一福田小学校</p>
<p>タ イ ト ル</p>	<p>①校内研究の進め方についての指導助言 ②研究授業の指導助言および講演 ③研究授業の指導助言 ④研究授業の指導助言 ⑤講義「算数科授業づくりの基礎・基本」 ⑥講義「次期学習指導要領が目指す算数」 ⑦研究授業の指導助言 ⑧研究授業の指導助言</p>

	⑨研究授業の指導助言 ⑩研究授業の指導助言 ⑪研究授業の指導助言 ⑫講演「今こそ、算数を楽しむ教師になろう！魅力ある算数の授業づくり」 ⑬講演「子どもはもちろん、教師も楽しい！魅力ある算数の授業づくり」 ⑭講演「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた算数の授業づくり」 ⑮研究授業の指導助言 ⑯講演「ユニバーサルデザインの視点を生かした算数の授業づくり」 ⑰研究授業の指導助言 ⑱研究授業の指導助言 ⑲講演「算数の本質を目指す授業づくり～アクティブ・ラーニング～」 ⑳第49回中国・四国算数・数学教育研究（岡山）大会指導案検討会の指導助言 ㉑講義「算数の本質を目指す授業づくり」 ㉒研究授業の学習指導案についての指導助言 ㉓研究授業の指導助言 ㉔研究授業の指導助言 ㉕研究授業の指導助言 ㉖研究授業の指導助言 ㉗研究授業の指導助言 ㉘研究授業の指導助言 ㉙研究授業の指導助言 ㉚講演「アクティブ・ラーニング導入の背景と今後求められる授業改革」 ㉛研究発表及び研究授業の指導助言 ㉜研究授業の指導助言 ㉝研究授業の指導助言及び講演「算数科におけるアクティブ・ラーニング」 ㉞研究授業の指導助言 ㉟研究授業の指導助言
--	---

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	福 井 広 和
実 施 日	①平成28年5月3日 ②平成28年6月17日 ③平成28年7月31日 ④平成28年8月10日 ⑤平成28年9月14日 ⑥平成28年11月20日 ⑦平成28年11月26日 ⑧平成28年12月2日 ⑨平成28年12月11日 ⑩平成28年12月25日				

	⑪平成29年1月10日 ⑫平成29年1月27日
事業主催者（依頼元）	①岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア ②岡山ふれあいセンター ③岡山ふれあいセンター ④福井県教育研究所 ⑤岡山県生涯学習センター ⑥北陸電力エネルギー科学館 ⑦岡山市立高島小学校 ⑧瀬戸内市立牛窓東小学校 ⑨岡山県生涯学習センター ⑩兵庫県立生涯教育センター ⑪岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア ⑫富山県砺波市立出町小学校
タイトル	①サイエンスショー「おもりのはたらき ～やじろべえのひみつ～」 ②岡山市児童館児童厚生員・児童クラブ支援員研修会 ③「お父さんと一緒に科学実験教室」電撃イライラ棒 ④実践型集合研修講座 ⑤大人のためのサイエンスレクチャー ⑥偏光板で見えないメッセージを見よう ⑦たかしまフェスタ2016 ⑧全校児童対象科学教室「〇〇〇〇ころりん」 ⑨科学キッズフェスティバルin京山「飛び出すへこんだ顔」 ⑩うれしのサイエンス「吹き上げストロー」 ⑪サイエンスインストラクター新春事始め「ものとその重さ」 ⑫第48回教育実践研究発表会

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
実 施 日	①平成28年8月10日				
事業主催者（依頼元）	①おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク、岡山県				
タイトル	①親の育ちを支える環境づくり—エンパワーメントについて考える— ①親子の育ちを支えるスタッフのコンピテンシー				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	講 師	氏 名	長 田 健 一
実 施 日	①平成29年2月6日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立岡山一宮高校				
タ イ ト ル	①民主主義のジレンマと可能性 ―トランプ大統領から我々は何を学ぶか―				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
実 施 日	①平成28年5月13日 ②平成28年6月10日 ③平成28年8月22日 ④平成28年9月2日 ⑤平成28年9月21日 ⑥平成28年11月21日 ⑦平成29年2月22日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立鴨方高等学校 ②倉敷市教育委員会 ③西大寺中学校区教職員研修会 ④岡山県立鴨方高等学校 ⑤岡山県立早島支援学校 ⑥岡山県立鴨方高等学校 ⑦岡山県立鴨方高等学校				
タ イ ト ル	①教育相談 ②特別支援教育の視点からとらえる学習指導 ③学校における特別な教育的ニーズのある子どもへの対応 ④高等学校における合理的配慮について ⑤授業研究講師 ⑥教育相談 ⑦教育相談				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 みちる
実 施 日	①平成28年4月17日 ②平成28年8月24日 ③平成28年9月8日 ④平成29年2月19日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県臨床心理士会 ②岡山市教育研究研修センター ③岡山市 地域と家庭の子育て推進事業 ④NPO法人遊育・遊びを育てる会				
タ イ ト ル	①新入会員オリエンテーション「臨床心理士と倫理」 ②岡山市教育研究研修センター不登校問題研修講座 「不登校への理解と支援を考える」 ③子どもの育ちはみんなで支える～臨床心理士の立場から～ ④発達障がい支援講演会 子どもの心、子どもの育ち～臨床心理士の立場から～				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	鈴 木 薫
実 施 日	①平成28年4月26日 ②平成28年7月23日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県 岡山県研修講座の講師 新規採用養護教諭対象 ②岡山市 岡山市新採用幼稚園教諭・保育士対象				
タ イ ト ル	①「養護教諭の職務」 ②「保育中のけがや病気への対応」				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	森 宏 樹
実 施 日	①平成28年12月9日 ②平成29年1月20日				
事業主催者（依頼元）	①浅口市立金光中学校 ②高梁市立有漢西小学校				
タ イ ト ル	①薬物乱用防止 ②薬物乱用防止教室				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	下 山 真 衣
実 施 日	①平成28年5月16日～平成29年3月13日（全8回） ②平成28年5月30日～平成29年3月13日（全3回）				
事業主催者（依頼元）	①備前市子育て支援拠点 くるみの森 ②備前市子育て支援拠点 くるみの森				
タ イ ト ル	①発達障害のある子どもの親のペアレントトレーニング ②発達障害のある子どもの親のペアレントトレーニング0B				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	森 村 和 浩
実 施 日	①平成28年8月17日				
事業主催者（依頼元）	①福岡市教育センター				
タ イ ト ル	①平成28年度「健康教育」研修講座 「これからの健康教育のあり方：健やかなカラダとココロを育むために」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
実 施 日	①平成28年8月7～9日 ②平成28年8月22日 ③平成28年10月13日 ④平成28年10月24日 ⑤平成28年11月18日 ⑥平成28年12月3日 ⑦平成28年12月25～27日 ⑧平成29年1月8～9日				
事業主催者（依頼元）	①日本薬学会 ②岡山市男女共同社会推進センター（さんかく岡山） ③就実こども園 ④岡山北西ロータリークラブ ⑤社会福祉法人幸輝園乙多見事業所（岡山県社会保険協会） ⑥岡山市福田公民館 ⑦日本薬学会 ⑧薬学教育協議会				
タ イ ト ル	①第5回全国薬学生ワークショップ（実行委員長） ②平成28年度コドモさんかくゼミFOR GIRLS「目に見えない生き物の不思議な世界をのぞこう」 ③平成28年度子育て講座「冬の感染症から子どもを守る」 ④外部卓話「抗生物質が効かない!薬剤耐性菌の現状と対策」 ⑤勤労者の健康と福祉向上事業「冬場の感染症対策～正しい知識と予防～」				

⑥チャレンジワーク お仕事体験教室 「薬剤師さんになろう！」 ⑦第2回「若手薬学教員のためのアドバンスワークショップ」(実行委員) ⑧第46回薬学教育者ワークショップ中国・四国 in 岡山 (タスクフォース)
--

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴 田 隆 司
実 施 日	①平成28年7月23日				
事業主催者 (依頼元)	①井原市市民活動センター				
タ イ ト ル	①「薬と上手に付き合う方法」～生活習慣病～ どんなことに気をつけようか？				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	西 村 多 美 子
実 施 日	①平成28年9月3日				
事業主催者 (依頼元)	①岡山市男女共同参画推進センター				
タ イ ト ル	①28年度2016 コドモさんかくゼミ FOR GIRLS [理系っていいかも！未来のリケジョ応援プロジェクト]女の子のためのもっともっと理科がすきになる実験教室, くすりの不思議.				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	見 尾 光 庸
実 施 日	①平成28年8月21日				
事業主催者 (依頼元)	①薬剤師あゆみの会、富永薬局				
タ イ ト ル	①抗アレルギー薬の作用機序と最近の話題				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
実 施 日	①平成28年6月14日、21日 ②平成28年9月10日 ③平成28年8月30日 ④平成28年8月26日				
事業主催者（依頼元）	①清心中学校・清心女子高校 ②岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア ③岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア ④岡山スーパー大学院実行委員会				
タ イ ト ル	①科学教育（講義&実験）講師 ②親子望遠鏡体験学習会講師 ③わくわく科学塾 iPS細胞観察会講師 ④iPS細胞観察会講師				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
実 施 日	①平成28年7月16日				
事業主催者（依頼元）	①妹尾学区安全・安心ネットワーク協議会 箕島コミュニティ協議会 妹尾公民館				
タ イ ト ル	①大雨災害から命を守る				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授、助教	氏 名	増田和文、加藤久登
実 施 日	①平成29年3月11日				
事業主催者（依頼元）	①総社市教育委員会生涯学習課				
タ イ ト ル	①身近なもので電池を作ってみよう！				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
実 施 日	①平成28年6月7日 ②平成28年7月8日 ③平成28年7月14日 ④平成28年12月3日 ⑤平成28年12月8日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立西大寺高校 ②岡山市立石井中学校 ③岡山県立岡山東商業高校 ④岡山市立福田小学校、福田公民館 ⑤備前市立備前片上高校				
タ イ ト ル	①薬物乱用防止教室 講師 ②薬物乱用防止教室 講師 ③薬物乱用防止教室 講師 ④「チャレンジワーク！お仕事体験教室」 「薬剤師さんになろう！」 講師 ⑤薬物乱用防止教室 講師				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	古 林 呂 之
実 施 日	①平成28年6月19日 ②平成28年10月16日 ③平成28年12月3日				
事業主催者（依頼元）	①有限会社 富永調剤薬局 ②岡山市薬剤師会、岡山市、FM岡山 ③岡山市立福田公民館				
タ イ ト ル	①鼻腔内投与はお嫌いですか？～鼻腔内投与型医薬品の現在と未来を薬物動態から考える～ ②第5回薬物乱用防止キャンペーン「フィジカルアセスメント体験、お薬は安全が第一！（ポスター展示）」 ③チャレンジワーク お仕事体験教室 薬剤師さんになろう！				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	毎 熊 隆 誉
実 施 日	①平成28年12月7日 ②平成29年3月4日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県病院薬剤師会 ②岡山市立福田公民館				
タ イ ト ル	①薬学生に対する臨床実習後OSCEに向けて ②こども大学ふくだ・薬剤師体験				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	谷 口 憲 治
実 施 日	①平成28年5月27日 ②平成28年7月9日				
事業主催者（依頼元）	①岡山市御南西公民館 ②吉備創生カレッジ				
タ イ ト ル	①地域の宝発見で豊かな生活—日本酒と農村文化— ②農業の六次産業化の背景と岡山県の動き				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	三 枝 省 三
実 施 日	①平成28年5月30日 ②平成28年7月23日 ③平成28年9月9日				
事業主催者（依頼元）	①国立大学法人琉球大学 地域連携推進機構 ②吉備創生カレッジ:『地域創造とマネジメント』 ③岡山市福田公民館:福田生きがいセミナー				
タ イ ト ル	①アントレプレナーシップ講座 ②日本ものづくりの生き残りへ(アップルとソニーの比較から) ③日本ものづくりの再生へ～アップルとソニーの比較から提案～				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野 本 明 成
実 施 日	①平成28年6月25日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創生カレッジ				
タ イ ト ル	①マーケティング・リサーチによる地域創生の試み				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
実 施 日	①平成28年6月18日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創生カレッジ『地域創造とマネジメント』				
タ イ ト ル	①山田方谷の藩政改革と地域創生				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	林 俊 克
実 施 日	①平成28年4月19日 ②平成28年7月27日 ③平成28年7月30日 ④平成28年11月10日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立岡山操山高等学校「1年宿泊研修」基調講演 ②平成28年度岡山県産業労働部部内研修（政策立案編） ③大学コンソーシアム岡山（吉備創生カレッジ） ④津山工業高等専門学校寮生教養講座				
タ イ ト ル	①操山高校に入学された皆さんへ ②市場調査研修 ③未来を創造する会議「フューチャーセッション」 ④津山高専1年生の皆さんに送る人生のヒント				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	真 田 正 次
実 施 日	①平成28年7月2日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創生カレッジ				
タ イ ト ル	①地域創造とマネジメントー会計基準の国際的統一と日本の対応ー				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	准教授	氏 名	八 卷 恵 子
実 施 日	①平成28年12月8日				
事業主催者（依頼元）	①「記念日をすごすまち 倉敷」推進協議会				
タ イ ト ル	①『選ばれる体験プログラム ー 記念日をすごす「聖地」倉敷ー』				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
実 施 日	①平成28年6月25日 ②平成28年9月15日 ③平成28年9月28日 ④平成28年11月25日				
事業主催者（依頼元）	①くらしと協同の研究所 第24回総会記念シンポジウム ②地域と協同の研究センター『協同の未来塾』第9回 ③鳥取県生活協同組合理事学習会 ④鳥取県生活協同組合理事学習会				
タ イ ト ル	①地域を支える人を育てる～事業と活動を通じた協同組合の可能性 ②非営利組織のマーケティング論 ③地域社会づくりへの参加と協同組合の可能性～事業と活動を通じて～① ④地域社会づくりへの参加と協同組合の可能性～事業と活動を通じて～②				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
実 施 日	①平成28年7月19日 ②平成28年8月1日 ③平成28年8月20日 ④平成29年2月9日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立林野高等学校 ②おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク ③就実短期大学潜在保育士復職プロジェクト研修 ④岡山労働局・岡山公共職業安定所・岡山市				
内 容（タイトル）	①職業人としての保育者の魅力 ②地域子育て支援拠点等従事者養成講座 基礎研修 ー子どもの発達をふまえた子育ての環境ー ③保育原理 ④保育の魅力				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹 倉 千佳弘
実 施 日	①平成28年10月20日 ②平成28年11月12日 ③平成28年9月1日 ④平成29年2月25日				
事業主催者（依頼元）	①岡山大学大学院保健学研究科「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム ②長崎県教育を語る会実行委員会 ③（公社）子ども情報研究センター・子ども人権部会 ④（公社）子ども情報研究センター・子育て連携部会（科研費調査研究報告会）				
タ イ ト ル	①「社会的ハイリスク妊産婦と彼女から生まれた子どもへの支援」 ②「『子どもの貧困』を問い直すーいま、私たちにできることは何かー」 ③「脱落型不登校児童を地域社会で支援する」, 「里親養育を地域で支援する」 ④「脱落型不登校児童のエンパワメント実現を可能とする地域社会の支援ネットワークモデル」				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
実 施 日	①平成28年5月1日、6月12日 ②平成28年9月8日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市立美術館 ②日本保育協会青年部				
タ イ ト ル	①ワークショップ「2000年後の化石を作ろう!」の講師 ②ワークショップ「造形ワークショップ：アートを生かした造形活動」の講師 ＊第38回全国青年保育者会議岡山大会 分科会				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	荊 木 まき子
実 施 日	①平成28年10月29日				
事業主催者（依頼元）	①大阪教育大学教職大学院				
タ イ ト ル	①「教師の学び舎」 「専門家として生きるということ」				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	鎌 田 雅 史
実 施 日	①平成28年12月4日				
事業主催者（依頼元）	①ライフパーク倉敷				
タ イ ト ル	①やる気の心理学				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	加 藤 美 奈 子
実 施 日	①平成28年6月25日				
事業主催者（依頼元）	①哲西牧水顕彰会				
タ イ ト ル	①与謝野寛・晶子 岡山への旅と歌				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	講 師	氏 名	小 田 奈 緒 美
実 施 日	①平成29年2月17日				
事業主催者（依頼元）	①岡山市市民生活局生活安全課消費生活センター				
タ イ ト ル	①社会を変える節約お買い物術-賢い消費者になるために-				

所 属	学生課（兼）国際交流センター	職 位	課長代理	氏 名	野 村 照 代
実 施 日	①平成28年6月4日				
事業主催者（依頼元）	①岡山キャリア教育支援ネット（SNECO）				
タ イ ト ル	①失敗しない就活・インターンシップのためのマナー講座④ —社会で生きる力を身につけよう！成功の鍵はやり抜く力！—				

『地域と歩んだ就実の軌跡—地域貢献報告書』

第 9 号

2017 年 4 月 28 日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1
Tel (086) 271-8111 (代)

発行責任者 地域貢献委員長 小野 浩重

印 刷 株式会社プリント・ケイ

